

多様な生徒への対応について

○中途退学者、不登校生徒に関すること（国公私立高等学校）

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について（文部科学省）

・中途退学理由（上位3項目を示す）

高 知 県				全 国			
上位3項目		人	%	上位3項目		人	%
H26	学校生活・学業不適応	141	33.8	学校生活・学業不適応	21,757	36.3	
	進路変更	111	26.6	進路変更	19,685	32.9	
	問題行動等	33	7.9	学業不振	4,845	8.1	
	合 計	417	-	合 計	53,391	-	
R1	学校生活・学業不適応	103	38	進路変更	17,155	35.3	
	進路変更	80	29.5	学校生活・学業不適応	16,622	34.2	
	学業不振	20	7.4	学業不振	3,771	7.8	
	合 計	271	-	合 計	42,882	-	
R2	進路変更	99	40.6	学校生活・学業不適応	15,678	36.6	
	学校生活・学業不適応	86	35.2	進路変更	15,237	35.5	
	学業不振	14	5.7	学業不振	2,905	6.8	
	合 計	244	-	合 計	34,965	-	
R3	進路変更	105	41.3	進路変更	15087	43.1	
	学校生活・学業不適応	96	37.8	学校生活・学業不適応	10662	30.5	
	学業不振、家庭の事情	8	3.1	学業不振	2029	5.8	
	家庭の事情	8	3.1	合 計	38,928	-	
	合 計	254	-				
R4	進路変更	98	37.4	進路変更	17,219	44.2	
	学校生活・学業不適応	86	32.8	学校生活・学業不適応	11,855	30.5	
	学業不振	19	7.3	学業不振	2,560	6.6	
	合 計	262	-	合 計	43,401	-	

・不登校生徒に関すること

高知県	H29	H30	R1	R2	R3	R4	生徒数の増減 R1→R4
不登校生徒数(人)	285	320	353	303	303	292	▲ 61
1,000人当たりの不登校生徒数(人)	14.9	17.1	19.6	17.4	18	17.6	▲ 2.0

【参考】不登校の理由（全国）

	不登校生徒数	学校に係る状況									家庭に係る状況			本人に係る状況		左記に該当なし	
		いじめ	関係の悪化	いじめの排除	めぐる問題	教職員の関与	学業不振	進路に係る不安	動等への不適応	クラブ活動	めぐる問題	学校生活	進級時の転入	急激な変化	家庭内環境		親子関係
国公私立 全課程	主たるもの(人)	60,575	124	5,576	286	3,416	2,489	492	514	5,070	1,080	1,703	1,093	9,651	24,223	4,858	
	主たるもの(%)	***	0.2	9.2	0.5	5.6	4.1	0.8	0.8	8.4	1.8	2.8	1.8	15.9	40.0	8.0	
	主たるもの以外に当てはまるもの(人)	***	27	12,955	207	23,577	13,027	300	293	10,647	4,297	14,537	7,147	23,197	3,720	***	
	主たるもの以外に当てはまるもの(人)	***	0.0	2.1	0.3	3.9	2.1	0.5	0.5	1.8	0.7	2.4	1.2	3.8	6.1	***	

# 令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果について

## 1 調査の趣旨

本調査は、児童生徒の問題行動・不登校等について、全国の状況を調査・分析することにより、教育現場における生徒指導上の取組の一層の充実に資するとともに、本調査を通じて実態把握を行うことにより、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応につなげていくものとする。

## 2 調査対象期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

## 3 調査対象

### (1) 調査対象学校数及び児童生徒数（高知県）

	国・公・私立学校
小学校 (義務教育学校前期)	190 校 30,993 人
中学校 (義務教育学校後期)	106 校 16,588 人
高等学校	46 校 17,191 人
特別支援学校	17 校 826 人
合計	359 校 65,598 人

※高知工業高等専門学校及び専攻科在籍生徒を除く

### (2) 校種別調査対象項目

	暴力行為	いじめ	不登校	中途退学
小学校	○	○	○	
中学校	○	○	○	
高等学校	○	○	○	○
特別支援学校		○		

## 4 調査結果の概要

### (1) 暴力行為

#### ① 暴力行為の発生件数【国公立学校】

(単位：件)

校種 種別	小学校			中学校			高等学校			合計		
	発生件数		前年度 比較	発生件数		前年度 比較	発生件数		前年度 比較	発生件数		前年度 比較
	R3	R4		R3	R4		R3	R4		R3	R4	
対教師暴力	64	19	-45	28	20	-8	4	1	-3	96	40	-56
生徒間暴力	301	98	-203	136	65	-71	32	23	-9	469	186	-283
対人暴力	4	2	-2	11	8	-3	0	0	0	15	10	-5
器物損壊	56	29	-27	52	29	-23	18	2	-16	126	60	-66
計	425	148	-277	227	122	-105	54	26	-28	706	296	-410
1,000人当たりの発生件数										10.7	4.6	-6.1

#### ② 1,000人当たりの暴力行為の発生件数【国公立学校】(単位：件)

	高知県	全国
R3	10.7	6.0
R4	4.6	7.5
前年度比較	-6.1	+1.5

本県の国公立学校における暴力行為は296件であり、令和3年度と比較すると410件減少している。校種別では、全校種において減少している。

1,000人当たりの暴力行為は4.6件であり、令和3年度と比較すると6.1ポイントの減少となった。

本県における暴力行為については、これまで、一部の学校で多数発生しており、年度によって多発する学校が変わることが多く、前年度多発した学校が翌年減少しても、また別の学校で多発するなど、そういう状況の中で県全体の発生件数の減少が見られなかった。

県教育委員会は、市町村教育委員会とともに、令和3年度に暴力行為発生件数の多かった学校を訪問し、児童生徒への関わりや支援方法について助言・支援を行った。このことにより、令和3年度に発生件数の多かった学校については、令和4年度における発生を抑制することができた。

また、その他の学校についても市町村教育委員会と連携し、学期ごとの暴力行為の件数や形態についてのデータ分析に基づき、各学校の実態に応じた支援策を共有し実践したことが、県全体の暴力行為の抑制につながった。

さらに、特に地域全体で暴力行為が減少した教育委員会においては、荒れの兆候が見られる管内の学校に指導主事等が訪問を重ね、学校の安定化に向けた助言や支援を行うなど、各市町村において重点的に取組がなされたことも令和4年度の暴力行為発生抑制につながった。

(2) いじめ

① いじめの認知件数【国公立学校】

(単位：件)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合 計	
	認知件数	認知件数	認知件数	認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数
R3	2,698	596	322	56	3,672	55.1
<b>R4</b>	<b>2,771</b>	<b>650</b>	<b>289</b>	<b>39</b>	<b>3,749</b>	<b>57.2</b>
前年度比較	+73	+54	-33	-17	+77	+2.1

② 1,000人当たりのいじめの認知件数【国公立学校】

(単位：件)

	高知県	全国
R3	55.1	47.7
<b>R4</b>	<b>57.2</b>	<b>53.3</b>
前年度比較	+2.1	+5.6

③ いじめ発見のきっかけ【国公立学校】

(上位3項目)

「本人からの訴え」(29.1%)

「アンケート調査など学校の取組により発見」(26.0%)

「学級担任が発見」(20.4%)

④ いじめの現在の状況【国公立学校】

解消しているもの (日常的に観察継続中)		解消に向けて 取組中		その他		計
(件)	割合(%)	(件)	割合(%)	(件)	割合(%)	(件)
2,849	76.0	899	24.0	1	0.0	3,749

## ⑤ いじめの重大事態発生件数【国公立学校】

(単位：件)

	R3			R4		
	発生件数			発生件数		
	1号	2号		1号※	2号※	
高知県	21	12	10	19	13	8

※いじめ防止対策推進法（平成25年）第28条

1号 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。

2号 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

1件の重大事態が1号及び2号の両方に該当する場合は、それぞれに計上することとしている。

## ⑥ 1,000人当たりのいじめの重大事態発生件数【国公立学校】(単位：件)

	高知県	全国
R3	0.32	0.05
R4	0.29	0.07
前年度比較	-0.03	+0.02

本県の国公立学校におけるいじめの認知件数は3,749件であり、令和3年度と比較すると77件増加している。1,000人当たりのいじめの認知件数は57.2件であり、令和3年度と比較すると2.1ポイントの増加となった。いじめ発見のきっかけは、「本人からの訴え」が最も多くなっている。

いじめの現在の状況は、「解消しているもの（日常的に観察継続中）」が76.0%であった。

高知県のいじめの認知件数について、全国同様過去最多となった。しかし、認知件数が多いことはいじめへの感度が上がり、早期発見・早期対応を可能とする事案が増加するという意味で、文部科学省も積極的に認知している学校を肯定的に評価している。いじめ防止対策推進法が平成25年に施行されて以降、各学校においていじめを積極的に認知するという姿勢で取り組んできたことの表れだと捉えている。また、いじめ発見のきっかけとして、前年度は「アンケート調査など学校の取組により発見」が最も多かったが、令和4年度は「本人からの訴え」が最も多くなっており、教職員のいじめに対する認識が高くなったことに加え、児童生徒の「いじめは許される行為ではない」「一人で悩みを抱え込まない」といったいじめに対する認識が向上していることが考えられる。さらに、自分の気持ちを一人一台端末で表す「きもちメーター」の活用など、児童生徒が発信しやすい環境を整え、教職員がこれまで気付きにくかった児童生徒の些細な変化にアプローチできる体制づくりが進んでいることなどが、認知件数の増加につながったと考えられる。

令和4年度はいじめの重大事態については、前年度より2件減少しているものの、全国値より依然高い状況が続いている。本県では、被害児童生徒や保護者の思いに寄り添い、重大事態の疑いがある段階から早期に調査に着手している。発生件数は、いじめ防止対策推進法に則って調査を行った件数であり、実際には、いじめが確認されなかったものや調査中のものを含んだ数である。

しかし、いじめの重大事態が全国と比べ多い状況にあり、このことは憂慮すべきことである。いじめを生じさせない未然防止の取組や、これまで同様、いじめの認知を積極的に行い、さらに的確に対応する手立てを講じていく必要がある。

(3) 不登校  
 〈 小中学校 〉

① 不登校児童生徒数【国公立学校】

(単位：人)

年度	小学校		中学校		合 計	
	不登校児童数	1,000人当たりの不登校児童数	不登校生徒数	1,000人当たりの不登校生徒数	不登校児童生徒数	1,000人当たりの不登校児童生徒数
R3	465	14.8	1,043	61.2	1,508	31.2
<b>R4</b>	<b>469</b>	<b>15.1</b>	<b>994</b>	<b>59.9</b>	<b>1,463</b>	<b>30.7</b>
前年度比較	+4	+0.3	-49	-1.3	-45	-0.5

② 1,000人当たりの不登校児童生徒数【国公立学校】

(単位：人)

年度	小学校		中学校		合計	
	高知県	全国	高知県	全国	高知県	全国
R3	14.8	13.0	61.2	50.0	31.2	25.7
<b>R4</b>	<b>15.1</b>	<b>17.0</b>	<b>59.9</b>	<b>59.8</b>	<b>30.7</b>	<b>31.7</b>
前年度比較	+0.3	+4.0	-1.3	+9.8	-0.5	+6.0

本県の国公立小中学校における不登校児童生徒数は1,463人であり、令和3年度と比較すると45人減少している。

1,000人当たりの不登校児童生徒数は30.7人であり、令和3年度と比較すると0.5ポイントの減少となった。

〈 高等学校 〉

① 不登校生徒数【国公立学校】

(単位：人)

年度	不登校生徒数	1,000人当たりの不登校生徒数
R3	303	18.0
<b>R4</b>	<b>292</b>	<b>17.6</b>
前年度比較	-11	-0.4

② 1,000人当たりの不登校生徒数【国公立学校】（単位：人）

年度	高知県	全国
R3	18.0	16.9
<b>R4</b>	<b>17.6</b>	<b>20.4</b>
前年度比較	-0.4	+3.5

本県の国公立高等学校における不登校生徒数は292人であり、令和3年度と比較すると11人減少している。1,000人当たりの不登校生徒数は17.6人であり、令和3年度と比較すると0.4ポイント減少している。

本県の不登校の減少の背景については、まず学校において、不登校に対する教員の認識や対応力の向上を図るための研修の充実を積極的に行ってきたことが、不登校児童生徒への初期対応力向上につながったと考えている。

また、児童生徒が一人一台端末を使い、自分の気持ちを毎日表現できる「きもちメーター」の機能を活用し、不登校の兆しが見える児童生徒を学校全体で把握し対応を行う組織体制を推進してきた結果、兆しが見えた段階で早期の情報共有を行っている学校の割合も高い状況が見られた。教員が児童生徒の些細な変化に気づき、見守りや声かけ、個人面談など早期発見・対応できるようになり、小中学校の新規不登校児童生徒数が減少したことにもつながったと考えている。

さらに、これまで不登校担当教員の配置や校内サポートルームの設置などに取り組んだ結果、不登校担当教員を配置した小学校では、新規不登校児童数の減少や校内サポートルームを設置した中学校では、欠席日数の減少といった効果も見られている。

加えて、本県では、個々の児童生徒の状況や抱えている課題に応じた支援を行うことが重要と考え、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置充実を図ってきた。支援体制を充実させたことで、学校内外の機関等での相談・指導等を受けた不登校児童生徒の割合が全国と比べ高い状況であると共に、各学校で実施されている校内支援会において、SC・SSWの専門性を生かした支援策の検討が行われるようになっている。

こうしたこれまでの不登校への総合的な取組・対応の成果が、今回の調査結果に表れているものとする。

#### (4) 中途退学

##### ① 中途退学者数・中途退学率【国公立学校】

	退学者数 (人)	中途退学率 (%)
R3	254	1.5
<b>R4</b>	<b>262</b>	<b>1.5</b>
前年度比較	+8	0

##### ② 中途退学率【国公立学校】 (単位：%)

	高知県	全国
R3	1.5	1.2
<b>R4</b>	<b>1.5</b>	<b>1.4</b>
前年度比較	0	+0.2

##### ③ 中途退学の理由【国公立学校】 (上位3項目)

「進路変更」(37.4%)

「学校生活・学業不適應」(32.8%)

「学業不振」(7.3%)

本県の国公立高等学校における中途退学者数は262人で、令和3年度より8人増加した。中途退学率は1.5%であり、令和3年度と同値である。

中途退学に至る主たる理由は、高い順に「進路変更」、「学校生活・学業不適應」、「学業不振」となっている。

本県においては、これまでも公立高等学校へのSC・SSWの配置拡充に努めてきた。各学校においては、そうした専門人材を活用した相談支援体制を構築して、中途退学の未然防止につなげている。

一方、中途退学の理由として「進路変更」「学校生活・学業不適應」が上位となっていることから、学校生活への目的意識を醸成することや個に応じた学習支援を充実させることも必要であると考えられる。

また、中途退学に至った場合にも、社会から孤立することなく、自己実現に向かうことのできる環境を選ぶことができるような支援も行われており、今後も、学校生活への適應の支援、中途退学に至った場合の居場所づくりや修学・就労支援を進めていく必要がある。



## 5 まとめと対策

高知県教育委員会では、児童生徒の問題行動や不登校等の生徒指導上の諸課題の改善に向け、第3期高知県教育振興基本計画において、重点的に進める取組として「不登校への総合的な対応」を位置づけ、「未然防止」「初期対応」「自立支援」の観点から様々な取組を行ってきた。その結果、暴力行為の減少及び不登校の出現率が、前年度の数値を下回る結果となった。小中学校の1,000人当たりの不登校児童生徒数が前年度を下回ったのは10年ぶりである。

本県はこれまで個々の児童生徒の状況や抱えている課題に応じた支援を行うことが重要と考え、SC(H7～)、SSW(H20～)の配置充実を行ってきた。SCは現在全校配置(H29～)、SSWに当たっては全市町村配置(R元)となっており、各学校で実施されている校内支援会において、SC・SSWを活用し、支援策の検討が行われるようになっている。

また、不登校等の生徒指導上の諸課題に対する教員の認識や、対応力の向上を図るための研修の充実をはじめ、不登校に係る取組を地域全体で推進していくための仕組みづくりを目的とした指定校事業「高知夢いっぱいプロジェクト推進事業」(H25～)、教員が児童生徒へ向き合う時間の創出を目的とした全小中学校への35人以下学級の導入(R4～)など、未然防止の取組を積極的に推進してきた。

さらには、教員が児童生徒の些細な変化に気づき、いじめや不登校など早期発見・対応できるよう、一人一台端末を使い、自分の気持ちを毎日表現できる「きもちメーター」(R3～)の導入・活用や、不登校の兆しが見える児童生徒を組織的に把握し、早期対応を行う体制として、不登校担当教員等の配置や校内サポートルーム(R3～)の設置など、これまで継続してきた様々な施策、取組が相乗効果をもたらし、今回の調査結果にあらわれてきているものと考えている。

暴力行為については、学期ごとの暴力行為の件数や形態についてのデータ分析に基づき、各地域、各学校の実態に応じた効果的な支援策を講じ、暴力行為の発生を抑制できている状況が見られたことから、今後も引き続き市町村教育委員会とも連携しながら早期対応できるよう、学校に対して指導・助言を行っていく。

いじめについては、「誰にもどこにでも起こりうる」ものとして、いじめ防止対策推進法に基づき、見逃さないよう様々な方法で積極的な認知を進め、いじめの長期化、深刻化を防ぐため、早期の組織的な対応が図られるよう、学校や市町村教育委員会を支援していく。加えて、これまで重大事態の調査で検証した再発防止のための取組が確実に各学校に汎化されるよう、研修会等で継続して周知徹底していく。

不登校については、不登校児童生徒数が昨年度を下回ったものの、依然として多い状況が続いており、市町村によっては昨年度より増加が見られたところもあることから、これまでの取組がしっかりなされているか市町村教育委員会とともに検証し、効果の見られた取組を継続して実施するよう指導・支援を行っていく。

あわせて、不登校の児童生徒が、学びたい時に学べる場所や機会の確保のために、地域と連携した支援等も含め、市町村教育支援センター等、学校外の支援体制の強化や、オンラインによる学習支援、学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の設置の在り方、夜間中学や公民館・図書館等の活用等について、今年度設置した有識者会議において協議を進め、実施に向けて検討していく。

教員の時間外労働時間や病気休職者等について

○教員の時間外労働の割合（県立高等学校教員）

	R2	R3	R4	R3→R4 の変化
45 時間を超える月が 1 カ月以上ある教員の割合(%)	32.0	31.9	36.0	+4.1
80 時間を超える月が 1 カ月以上ある教員の割合(%)	4.8	4.4	6.0	+1.6

参考

「教員勤務実態調査（令和 4 年度）の集計（速報値）について」文部科学省初等中等教育局（令和 5 年 4 月 28 日）より

高等学校教諭	平日	土日
教員 1 人当たりの在校等時間	10:06	2:14
持ち帰り時間	0:29	0:46

○教職員の病気休職者や病気休暇取得者（文部科学省 公立学校教職員の人事行政状況調査について）

病気休職者	R1	R2	R3	R1→R3 の変化
高知県	16 (9)	12 (8)	4 (4)	-12(-5)
全国	1,240 (768)	1,158 (717)	1,142 (742)	-98(-26)

( )は病気休職者のうち精神疾患患者

病気休暇取得者	R1	R2	R3	R1→R3 の変化
高知県	38 (16)	33 (18)	34 (11)	-4(-5)
全国	2,715 (1,329)	2,649 (1,299)	2,672 (1,356)	-43(+27)

( )は病気休暇取得者のうち精神疾患患者



## 横断的取組 2 学校における働き方改革の推進

### 背景

- ・学習指導のみならず、児童生徒に関わるあらゆる業務に対応する中で、学校や教員に求められる役割が年々増大
- ・若年教員の時間外在校等時間が多いとともに、病気休暇や早期退職が増加傾向
- ・働き方改革の推進により、教員の時間外勤務は減少傾向にあるものの、依然として多忙な状態

### ポイント

教職員一人一人の働き方に関する意識改革の取組を推進する。  
 教員が子どもと向き合う時間を確保し、限られた時間の中で最大の教育効果を発揮することができるよう、市町村教育委員会や学校等と連携し、業務の効率化・削減、デジタル技術や外部人材の活用などにより、働き方改革を加速する。

### 「教育職員の在校等時間の上限等に関する方針」を策定（県・市町村）



#### 管理職を中心とした組織的なマネジメントの推進

- ・統合型校務支援システムを活用した勤務時間管理の徹底
- ・地域・保護者、外部人材との役割分担の明確化・適性化
- ・取組の進捗管理、検証・改善

#### 勤務時間を意識した取組の推進

- ・定時退校日、最終退校時刻、学校閉校日の設定等の取組促進
- ・機械警備の導入や留守番電話の設置

#### 部活動の運営の適正化

- ・部活動ガイドラインに基づく取組（適切な休養日、活動時間の設定等）
- ・部活動指導員等の活用による教員の負担軽減

#### 業務の効率化・削減

- ・統合型校務支援システムの活用  
指導要録や学習評価等の業務の電子化、教材等の共有、掲示板機能の活用 等
- ・学校行事の精選及び業務の見直し  
学校給食費等の公会計化や徴収業務移譲  
渉外等の業務移管と外部人材や地域ボランティアの活用

#### 業務の効率化・削減

- ・県立学校への自動採点システムの導入拡充と活用促進
- ・市町村立学校における諸手当・年末調整システムの活用促進
- ・アンケートシステムの活用促進
- ・部活動ガイドライン等に沿った部活動の徹底
- ・部活動の地域連携・地域移行の在り方等の検討
- ・学校等に対する調査・照会の削減・見直し
- ・研修等の精選  
集合研修とオンライン研修の効果的な組合せ  
遠隔教育システムによる教職員研修の拡充
- ・県教育委員会所管の事業等の見直し  
1校あたりの指定事業数の調整及び削減  
他事業との統合及び廃止  
事業内容や成果報告書等の見直し

#### 学校組織マネジメント力の向上と教職員の意識改革の推進

- ・管理職等を対象とした研修の実施
- ・若年者向けタイムマネジメント研修の実施
- ・他県や推進校等の好事例の紹介  
教育長会・校長会、ホームページ等
- ・学校組織体制の改善・強化  
小・中学校全ての学年で35人以下とし、効果的・効率的な教職員の配置  
全ての小学校における学校規模に応じた教科担任制の導入  
共同事務室の設置拡充と機能強化  
教育職員が休日のまとめ取りができる環境の整備 等

学校の取組への支援

- ・各市町村教育委員会・学校の取組の進捗状況の確認・検証
- ・保護者や地域等の学校における働き方改革に対する理解増進のための啓発

#### 専門スタッフ・外部人材の活用

- ・教員業務支援員、部活動支援員（文化部）・部活動指導員（運動部・文化部）、SC・SSW、学習支援員、スクールロイヤー、ICT支援員等の配置
- ・地域学校協働本部の活動内容の充実、コミュニティ・スクールの導入促進等

学校の取組への支援



遠隔教育システムを活用した研修

## キャンパス制について

### ○全国調査より

現在回答のあった都道府県のうち、22 府県でキャンパス制の学校を設置。

設置した経緯等を回答の中から一部抜粋。

設置した経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の校舎や産業教育施設の施設・設備を有効活用し、統合に要する予算や時間を削減するため</li> <li>・ハード面での経費負担、通学事情、地域への配慮等</li> <li>・普通科、農業科、水産科等のすべての施設を集約することが困難なことからキャンパス制を導入</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や特別活動で一定規模を確保できる。</li> <li>・出張授業により、専門教員の指導を受けることで、生徒の学びに対する意欲が高まっている。</li> <li>・生徒により多様で魅力のある学びを提供することができる。</li> <li>・課題研究発表会等を通して、互いの専門性に触れることで、自己の学びの刺激となっている。</li> <li>・市街地への通学が困難である山間部、中山間部における就学機会を確保できるとともに、該当地域での持続可能な地域づくりにおいて重要な役割を担っている。</li> <li>・既存の施設を有効活用できることで、地域の学びを保障することができる。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校地間の移動に時間がかかることや、生徒会活動や部活動に制約が生じたり、合同行事や校地の異なる学科間の連携した活動の実施が難しかったりする状況がある。</li> <li>・時間割編成（学校行事等の合同実施による時間割の編成変更や校舎を跨いで指導する教員の調整、合同実施する時間の確保・調整が困難）</li> <li>・生徒、教員の校舎間の移動に伴う予算措置が必要。</li> <li>・分校化と比較した場合に、教員配置数が少なくなる。</li> <li>・教職員数が少ないので、職員一人当たりの業務（係）数が多くなり負担が大きい。</li> <li>・教職員間の連携、情報共有を図りにくいなど、学校運営上の課題がある。</li> <li>・統一感（一体感）が生まれにくい</li> </ul>

### ○平成30年度 第7回教育委員協議会 議事録より

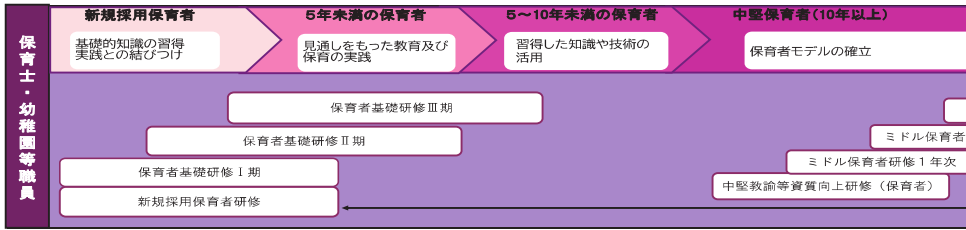
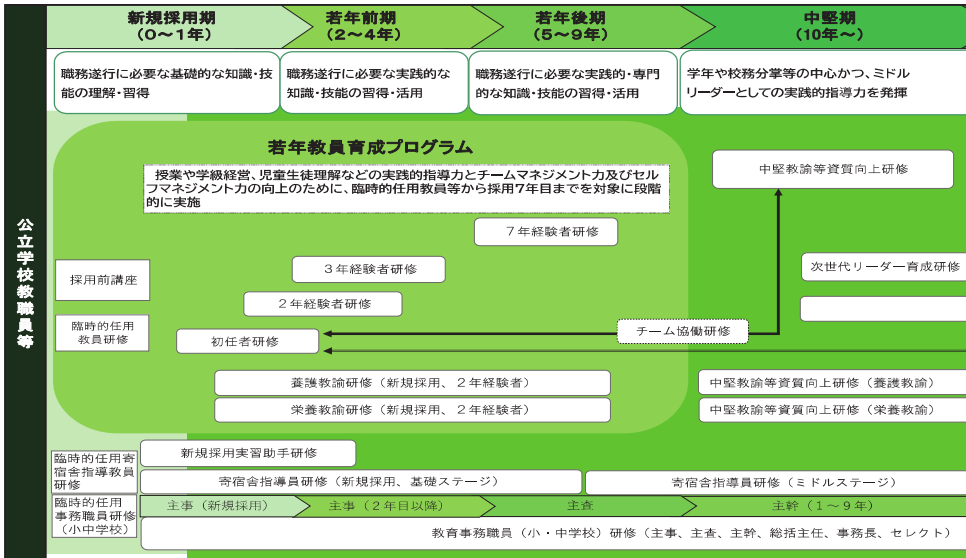
#### ・窪川高校と四万十高校について

キャンパス制にすると、両校の距離が遠く、キャンパス制のメリットが少なくなってしまう。部活動で合同で練習できる。キャンパス制にすると、結局統合することなので、校名、校歌、スクールカラーなどを統合する必要がある。また、四万十高校が窪川高校に吸収される印象を受けてしまう。後期実施計画の期間に地元でできることを試したいという、強い要望があり、統合に時間や労力をかけるより、現状維持をし、振興策に時間や労力をかけることを選んだ。

# 令和5年度 研修体系

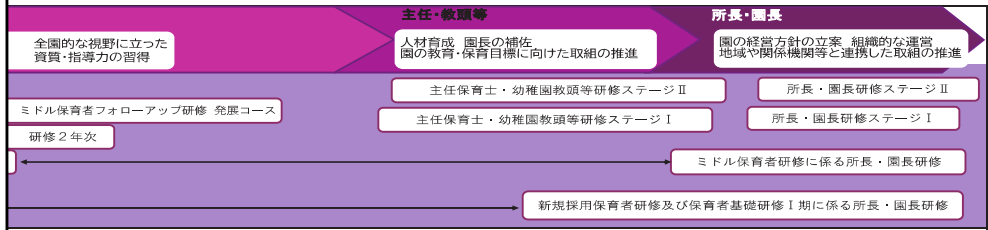
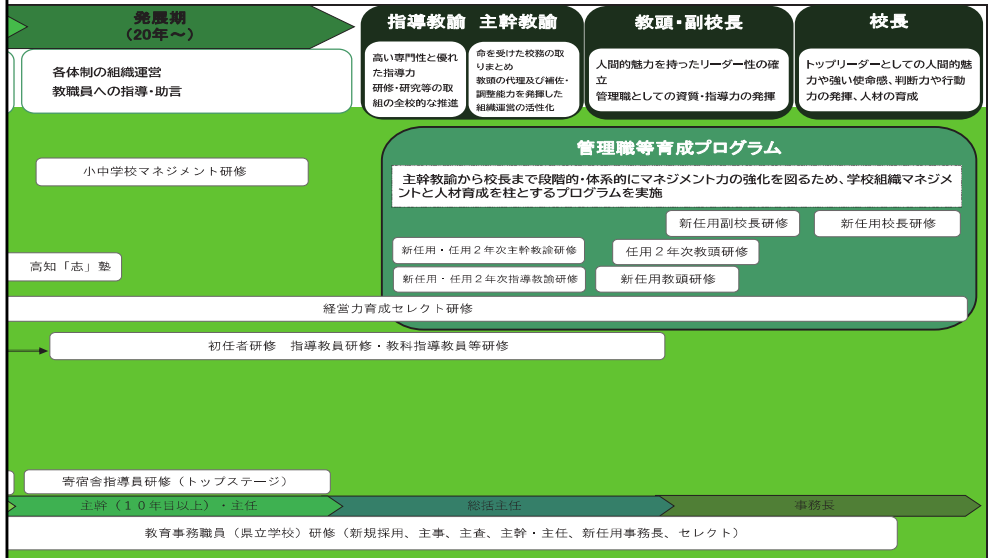
# 参考資料 4

## キャリアステージを踏まえた研修



## 今日的な教育課題へ対応した研修

<p><b>教科等研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■免許教科外の教科教授担任講習会</li> <li>■授業に生かせる消費者教育講座</li> </ul> <p>&lt;英語教育&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■外国語スキルアップ研修</li> <li>■英語指導力等向上研修</li> <li>■英語エンパワーメントセミナー</li> </ul>	<p><b>人権教育研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人権教育セミナー</li> <li>■人権教育実践スキルアップ講座</li> </ul>	<p><b>組織力向上研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■研修コーディネーター実践力向上研修</li> </ul>
<p><b>教育の情報化研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■新しい時代のICTを活用した学びのフォーラム</li> </ul>	<p><b>特別支援教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■新任特別支援学級担任研修</li> <li>■通級による指導担当教員研修</li> <li>■教育相談・心理検査実技等基礎講座</li> <li>■特別支援教育セミナー</li> </ul>	<p><b>生徒指導・教育相談研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人間関係づくり実践講座</li> <li>■学級づくりパワーアップ講座</li> <li>■高等学校生徒支援コーディネーター研修 (第2回)</li> </ul>
<p><b>教科研究センター講座</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎講座</li> <li>■特別講座</li> </ul>	<p><b>幼保研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■保幼小接続に関する研修</li> <li>■オンデマンド保育セミナー</li> <li>■保育技術専門講座</li> <li>■児童虐待に関する研修</li> <li>■家庭支援推進保育講座</li> <li>■認可外保育施設職員研修</li> <li>■園評価に関する研修</li> </ul>	<p><b>指導主事等研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■指導主事研修</li> <li>■県教育研究所連絡協議会 (春・秋)</li> </ul>



## 大学・研究団体等との連携事業

<p><b>共催講座</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■【高知大学教職大学院】学校全体で取り組む自立活動～特別な教育的支援ニーズがある子どもが学校や社会で過ごしやすいために～</li> <li>■【高知工業高等専門学校】プログラミング教育研究講座</li> <li>■【高知工業高等専門学校】日本語指導が必要な児童、生徒等へのレベル別日本語指導-高知大学の支援ノウハウから</li> <li>■【高知税務署】授業にもきっと役立つ！税の役割と仕組み</li> <li>■【歴史文化財庫】先生のための考古学入門講座</li> <li>■【県立高知ろう学校】特別支援教育講座 (聴覚障害教育講座)</li> <li>■【高知みらい科学館】理科学習会 (すぐに授業で使える教材づくりとアイデア)</li> <li>■【高知大学教育学部附属小学校】第73回学習指導研究発表会・第51回構式教育研究協議会</li> <li>■【高知大学教育学部附属中学校】高知大学教育学部附属中学校研究発表会</li> <li>■【県音楽教育研究会】第47回高知県音楽教育研究会音楽講習会・音楽科セミナー</li> <li>■【県高等学校音楽教育研究会】第20回高知県高等学校音楽教育研究会夏季音楽講習会・音楽科セミナー</li> <li>■【土佐教育研究会外国語部会・県高等学校教育研究会外国語部会】高知県英語教育研究大会</li> <li>■【土佐教育研究会】・高知県音楽教育研究大会 補多大会 ・第55回夏期国語教育学習会</li> <li>■第59回中国四国中学校理科教育研究会高知大会 第69回高知県理科教育研究大会 (中学校) ・第39回追究する子どもを育てる社会科教育研究会 (中部支部) 等</li> </ul>	<p><b>教科研究センター特別講座</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■【高知城歴史博物館】郷土資料の活用Ⅰ、Ⅱ</li> </ul>
<p><b>県内大学の教職実践演習への指導主事等派遣</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■高知大学 (全学教職開講分、教育学部開講分)</li> <li>■高知県立大学</li> <li>■高知工科大学</li> </ul> <p>教科、特別支援教育、科学技術、幼児教育等 教職に関する専門教育科目、教科 教職に関する専門教育科目</p>	<p><b>高知県教育公務員長期研修生 (研究生)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■保幼小接続</li> <li>■個別最適な学び・協働的な学び</li> </ul> <p>高知大学等との連携 研究生への研究指導等</p>
<p><b>高知大学教育学部との共同研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■小学校様式教育に関する研究</li> </ul>	

県立高等学校再編振興に係るアンケート調査  
報 告 書

平成24年2月20日

高 等 学 校 課

## 目 次

1	はじめに	1
2	調査の概要	1
3	集計結果	2
	・ 中学校 生徒	2
	・ 中学校 保護者	3
	・ 高等学校 全日制 生徒	4
	・ 高等学校 定時制 生徒	5
	・ 高等学校 全日制 保護者	6
	・ 高等学校 定時制 保護者	7
	・ 事業所	8
4	設問ごとの比較	9
5	全日制と定時制との比較	14
6	事業所について	18
7	総括	21
	資料〈アンケート書式〉	22

## 1 はじめに

本県では平成16年度から25年度までの10年間を見通した「県立高等学校再編計画」を策定し、本年度から第3次実施計画を実行している。しかし、平成26年度以降も生徒の減少が続き、更なる県立高等学校の振興と再編が必要であることから、産業振興や南海地震に対する防災等の視点も考慮した次期計画の策定に取り組んでいる。

今回の調査は、県内事業所、市町村（学校組合）立中学校3年生とその保護者及び県立高等学校2年生とその保護者から県立高等学校に対する期待等について次期計画策定のための資料を得るために実施した。

## 2 調査の概要

### (1) 実施時期

平成23年9月

### (2) 調査対象

#### ① 県内の市町村（学校組合）立中学校生徒（3年生）とその保護者（抽出）

【抽出校】23校を抽出 中学生 773名中、714名から回答  
保護者 773名中、631名から回答

#### ② 県内の県立高等学校生徒（2年生）とその保護者（抽出）

【抽出校】全日制13校、定時制7校  
高校生 613名中、540名から回答  
保護者 613名中、465名から回答

#### ③ 県内の事業所 100事業所中、84事業所から回答

##### 【業種別】

農・林・漁業：8事業所、土木・建設業：5事業所、製造業：41事業所、  
情報通信業：2事業所、運輸業：3事業所、卸売・小売業：15事業所、  
飲食店・宿泊業：6事業所、医療・福祉：7事業所、  
サービス業：13事業所

### (3) 回収状況

① 中学生92.4%、中学生保護者81.6%

② 高校生88.1%、高校生保護者75.9%

③ 事業所84.0%

### (4) アンケートの設問

#### ① 中学生、高校生及びその保護者に対する設問

・進学する高校を選ぶとき大切にすること  
・高校で望むこと  
・高校で身に付けたいこと（高校で身に付けてもらいたいこと）  
・通学時間  
・適正学級数  
・進学したい学科（どのような学科があればよいか）

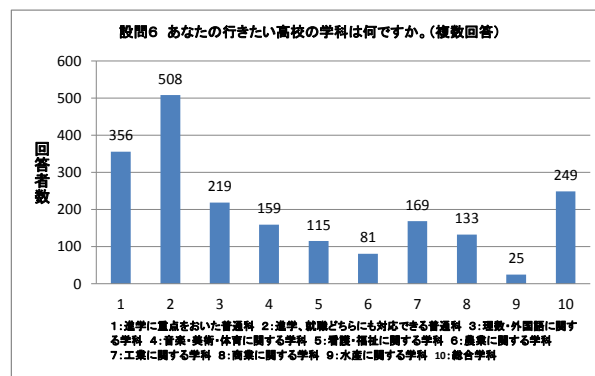
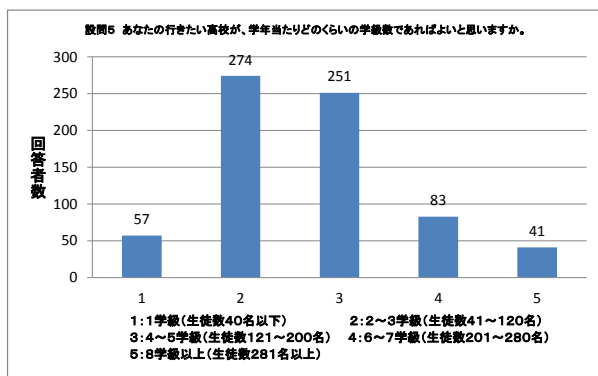
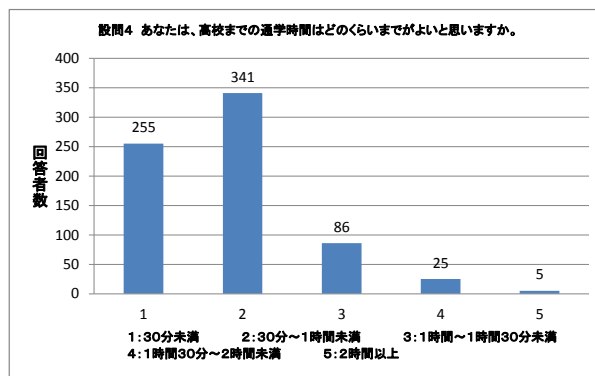
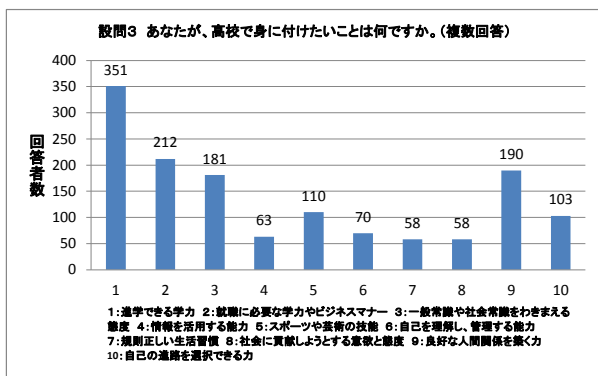
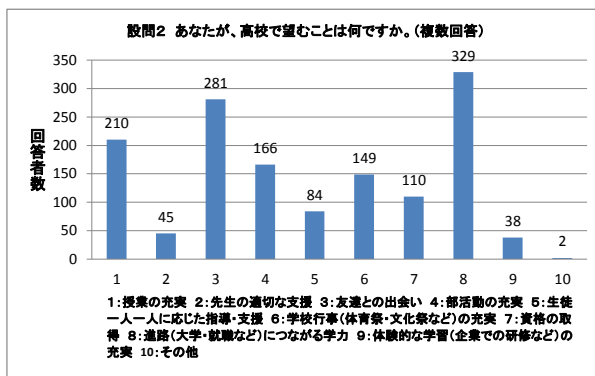
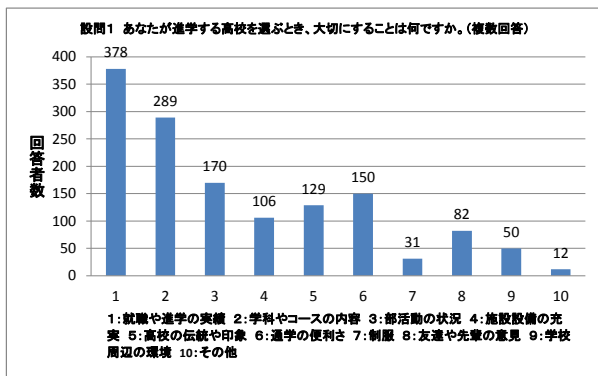
#### ② 事業所に対する設問

・子どもに大切にしてもらいたいこと  
・高校で身に付けてもらいたいこと  
・高校と連携できること  
・どのような学科があればよいか  
・高卒者を採用するときに重要視すること



### 3 集計結果

#### 高知県立高等学校再編振興に係るアンケート(中学校 生徒)



対象:23中学校714名(中学3年生)

《設問1 高校を選ぶとき、大切にすること》「就職や進学の実績」は378人(52.9%)で最も多く、以下「学科やコースの内容」は289人(40.5%)、「部活動の状況」は170人(23.8%)の順である。

《設問2 高校で望むこと》「進路につながる学力」は329人(46.1%)で最も多く、以下「友達との出会い」は281人(39.4%)、「授業の充実」は210人(29.4%)の順である。

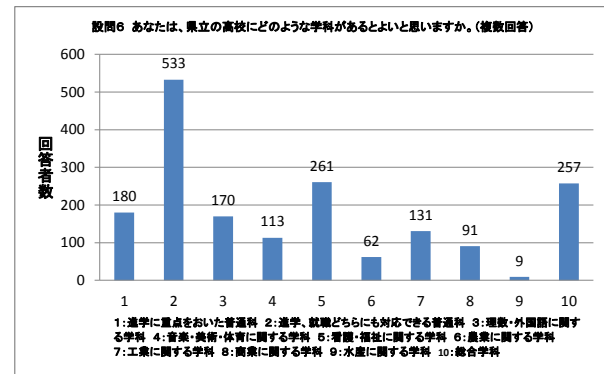
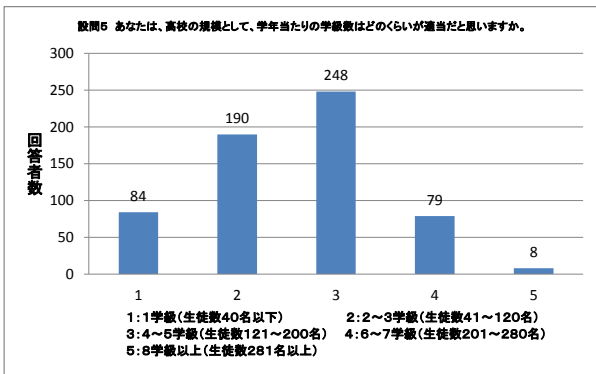
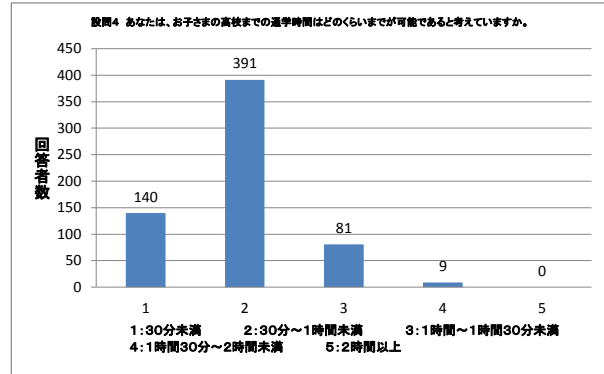
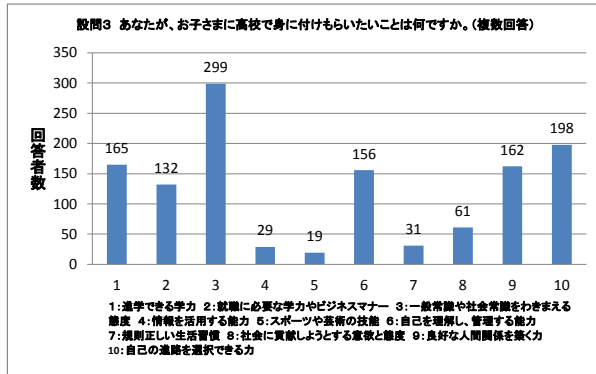
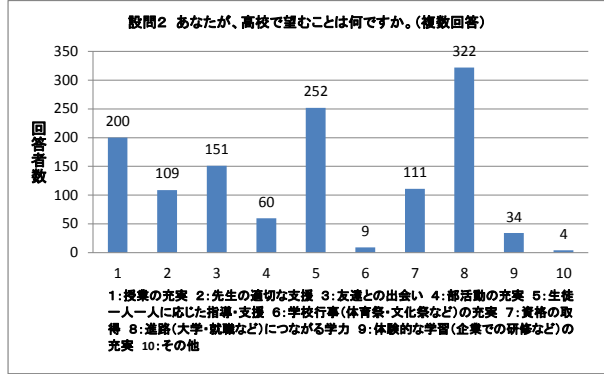
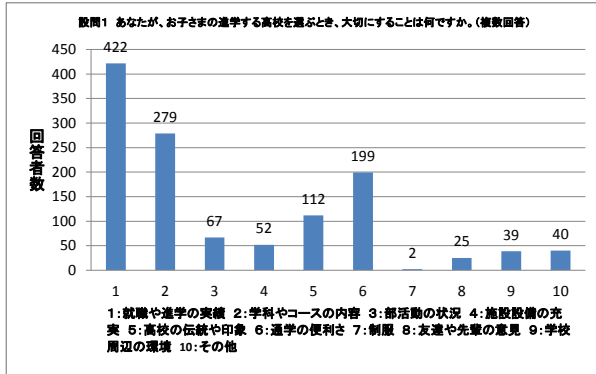
《設問3 高校で身に付けたいこと》「進学できる学力」は351人(49.2%)で最も多く、以下「就職に必要な学力やビジネスマナー」は212人(29.7%)、「良好な人間関係」は190人(26.6%)、「一般常識や社会常識をわかまえる態度」は181人(25.4%)の順である。

《設問4 通学時間について》「30分～1時間未満」は341人(47.8%)で最も多く、ついで「30分未満」は255人(35.7%)であった。

《設問5 学年当たりの学級数》「2～3学級」は274人(38.4%)で最も多く、ついで「4～5学級」は251人(35.2%)であった。

《設問6 行きたい学科について》「進学、就職どちらにも対応できる普通科」は508人(71.1%)で最も多く、以下「進学に重点をおいた普通科」356人(49.9%)、「総合学科」は249人(34.9%)の順である。

## 高知県立高等学校再編振興に係るアンケート(中学校 保護者)



対象: 23中学校631名(中学3年生の保護者)

《設問1 高校を選ぶとき、大切にすること》「就職や進学の実績」は422人(66.9%)で最も多く、以下「学科やコースの内容」は279人(44.2%)、「通学の便利さ」は199人(31.5%)の順である。

《設問2 高校で望むこと》「進路につながる学力」は322人(51.0%)で最も多く、以下「生徒一人一人に応じた指導・支援」は252人(39.9%)、「授業の充実」200人(31.7%)の順である。

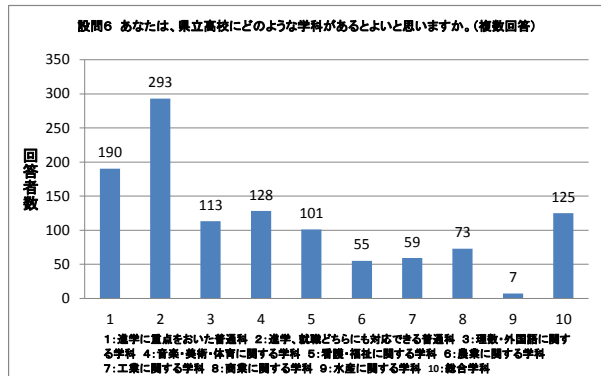
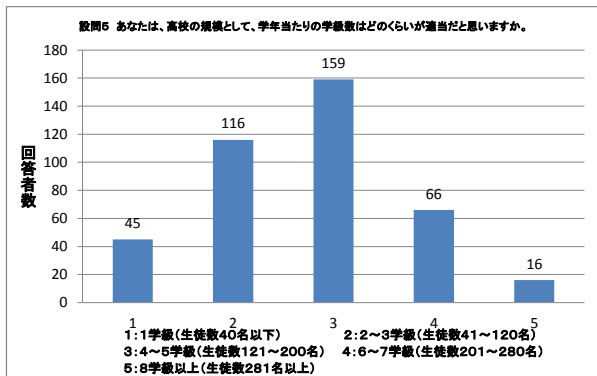
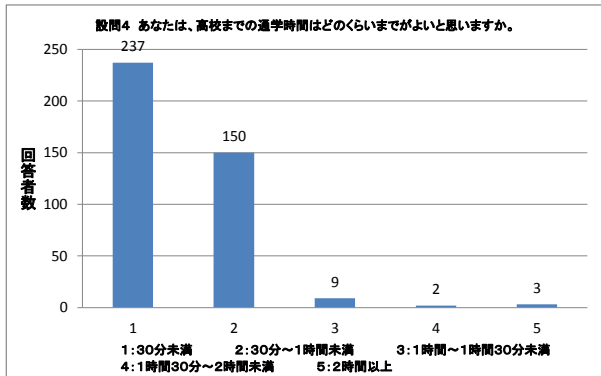
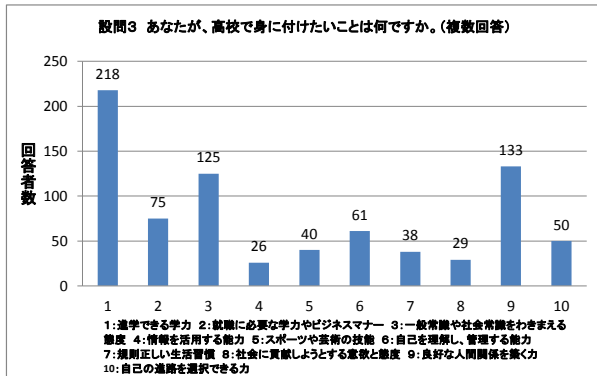
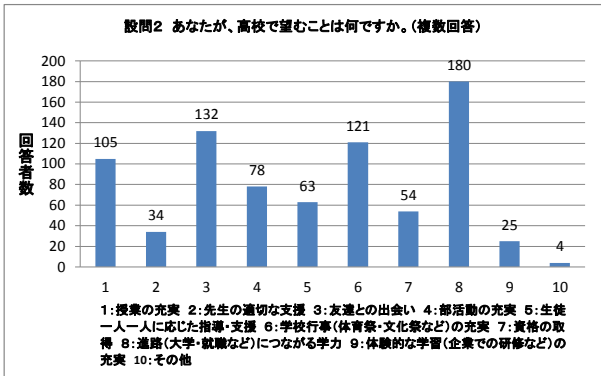
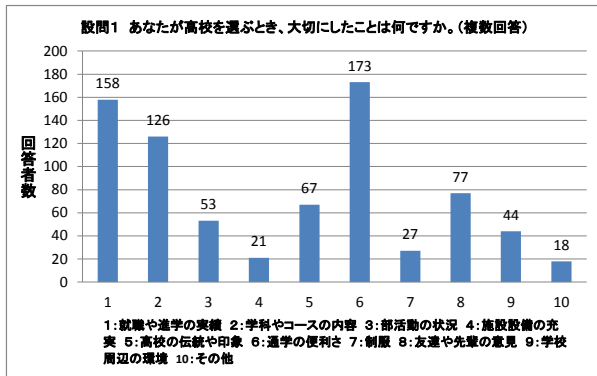
《設問3 高校で身に付けたいこと》「一般常識や社会常識をわかまえる態度」は299人(47.4%)で最も多く、以下「自己の進路を選択できる力」は198人(31.4%)、「進学できる学力」は165人(26.1%)の順である。

《設問4 通学時間について》「30分～1時間未満」は391人(62.0%)で最も多く、以下「30分未満」は140人(22.2%)、「1時間～1時間30分未満」は81人(12.8%)の順である。

《設問5 学年当たりの学級数》「4～5学級」は248人(39.3%)で最も多く、以下「2～3学級」は190人(30.1%)、「1学級」84人(13.3%)の順である。

《設問6 あるとよい学科について》「進学、就職どちらでも対応できる普通科」は533人(84.5%)で最も多く、以下「看護・福祉に関する学科」は261人(41.4%)、「総合学科」は257人(40.7%)の順である。

# 高知県立高等学校再編振興に係るアンケート(高等学校 全日制 生徒)



対象:全日制13校 403名(高校2年生)

《設問1 高校を選ぶとき、大切にしたいこと》「通学の便利さ」は173人(42.9%)で最も多く、以下「就職や進学の実績」は158人(39.2%)、「学科やコースの内容」は126人(31.3%)の順である。

《設問2 高校で望むこと》「進路につながる学力」は180人(44.7%)で最も多く、以下「友達との出会い」は132人(32.8%)、「学校行事の充実」は121人(30.0%)の順である。

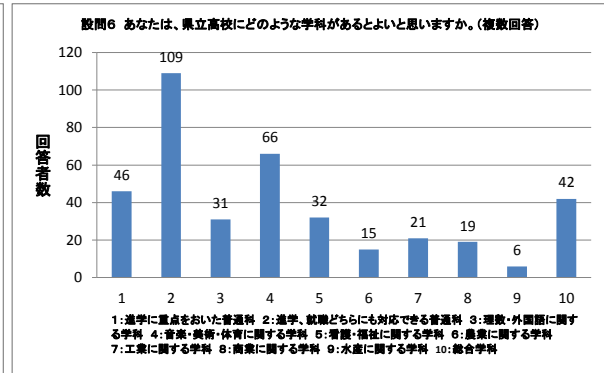
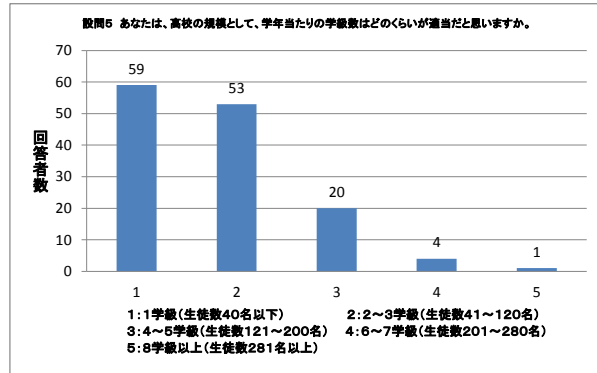
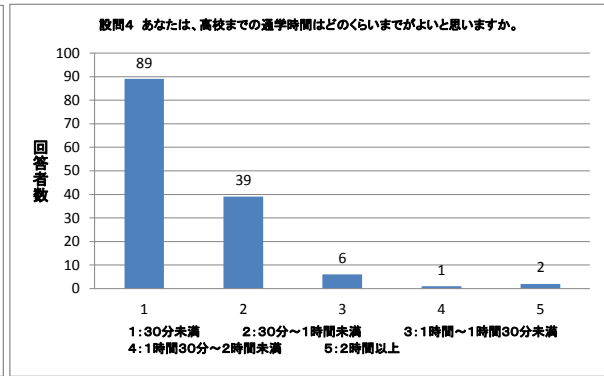
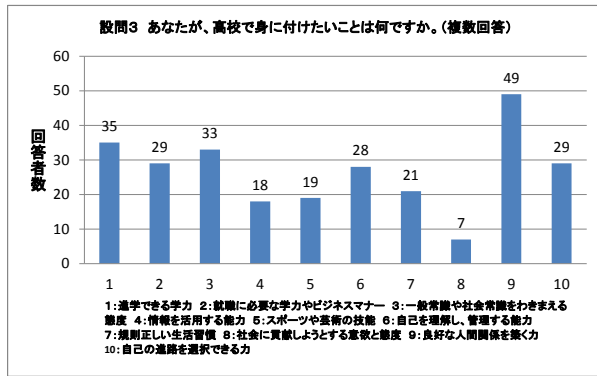
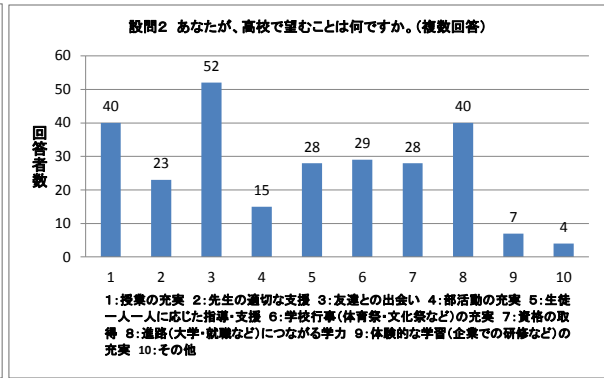
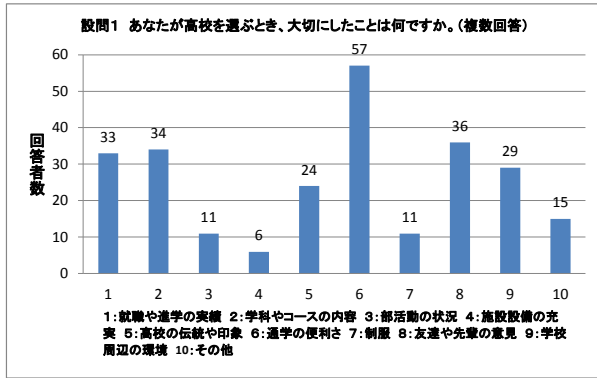
《設問3 高校で身に付けたいこと》「進学できる学力」は218人(54.1%)で最も多く、以下「良好な人間関係を築く力」は133人(33.0%)、「一般常識や社会常識をわかまえる態度」は125人(31.0%)の順である。

《設問4 通学時間について》「30分未満」は237人(58.8%)で最も多く、次いで「30分～1時間未満」は150人(37.2%)である。

《設問5 学年当たりの学級数》「4～5学級」は159人(39.5%)で最も多く、以下「2～3学級」は116人(28.8%)、「6～7学級」は66人(16.4%)の順である。

《設問6 あるとよい学科について》「進学、就職どちらにも対応できる普通科」は293人(72.7%)で最も多く、以下、「進学に重点をおいた普通科」は190人(47.1%)、「音楽・美術・体育に関する学科」は128人(31.8%)の順である。

# 高知県立高等学校再編振興に係るアンケート(高等学校 定時制 生徒)



対象:定時制9校 137名(高校2年生)

《設問1 高校を選ぶとき、大切にしたいこと》「通学の便利さ」は57人(41.6%)で最も多く、以下「友達や先輩の意見」は36人(26.3%)、「学科やコースの内容」は34人(24.8%)、「就職や進学の実績」は33人(24.1%)の順である。

《設問2 高校で望むこと》「友達との出会い」は52人(38.0%)で最も多く、以下「授業の充実」は40人(29.2%)、「進路につながる学力」は40人(29.2%)の順である。

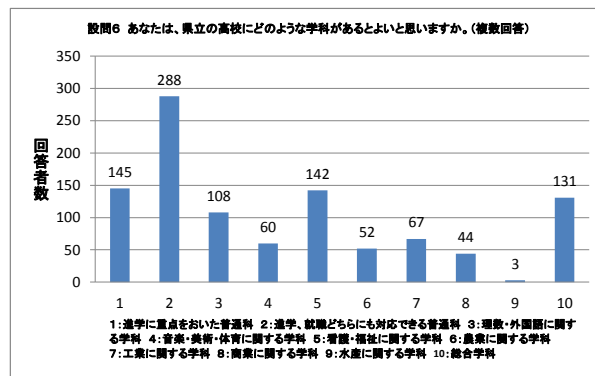
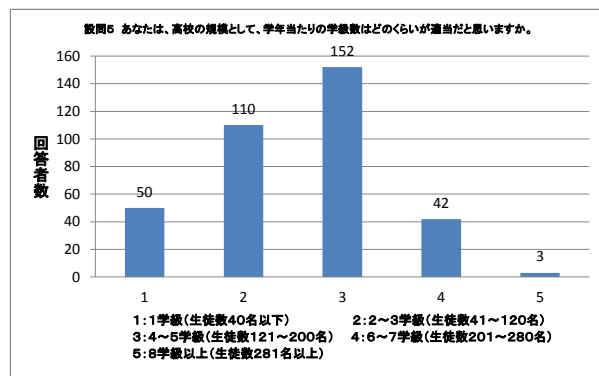
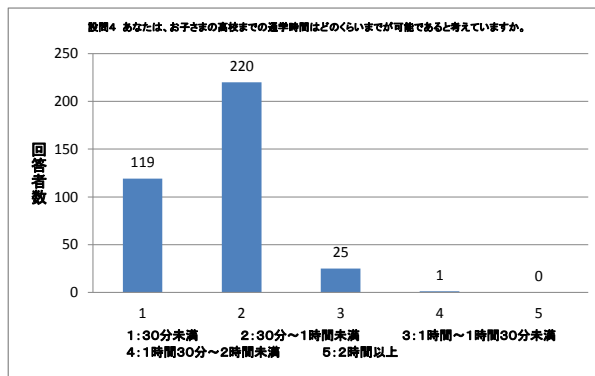
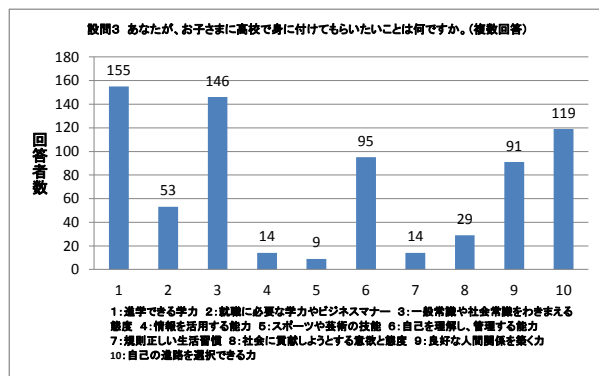
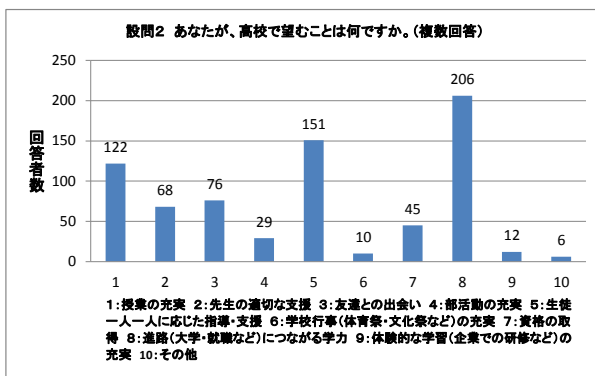
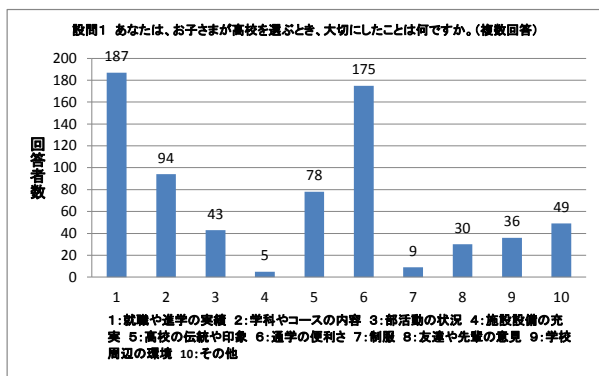
《設問3 高校で身に付けたいこと》「良好な人間関係を築く力」は49人(35.8%)で最も多く、以下「進学できる学力」は35人(25.5%)、「一般常識や社会常識をわきまえる態度」は33人(24.1%)の順である。

《設問4 通学時間について》「30分未満」は89人(65.0%)が最も多く、ついで「30分～1時間未満」は39人(28.5%)である。

《設問5 学年当たりの学級数》「1学級」は59人(43.1%)で最も多く、以下「2～3学級」は53人(38.7%)、「4～5学級」は20人(14.6%)の順である。

《設問6 あるとよい学科について》「進学、就職どちらにも対応できる普通科」は109人(79.6%)で突出して多く、以下「音楽・美術・体育に関する学科」は66人(48.2%)、「進学に重点をおいた普通科」は46人(33.6%)の順である。

# 高知県立高等学校再編振興に係るアンケート(高等学校 全日制 保護者)



対象:全日制13校 365名(高校2年生の保護者)

《設問1 高校を選ぶとき、大切にしたいこと》「就職や進学の実績」は187人(51.2%)で最も多く、以下「通学の便利さ」は175人(47.9%)、「学科やコースの内容」は94人(25.8%)の順である。

《設問2 高校で望むこと》「進路につながる学力」は206人(56.4%)で最も多く、以下「生徒一人一人に応じた指導・支援」151人(41.4%)、「授業の充実」122人(33.4%)の順である。

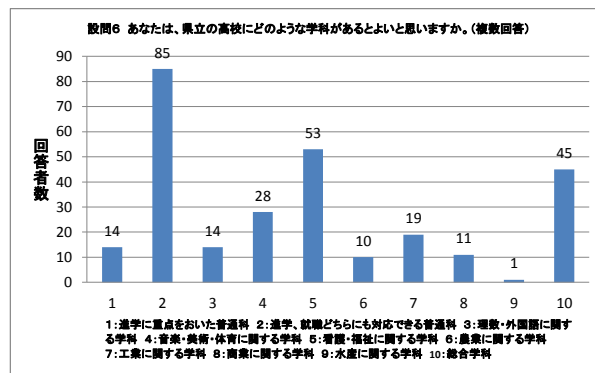
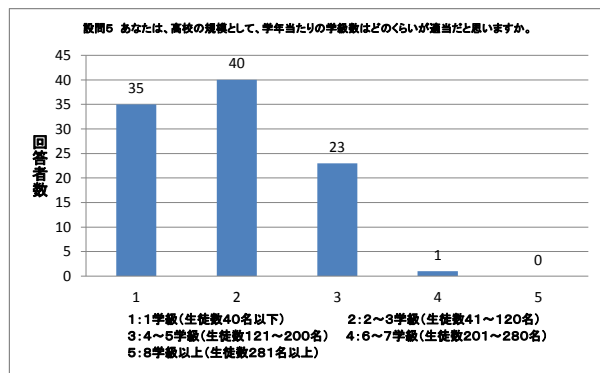
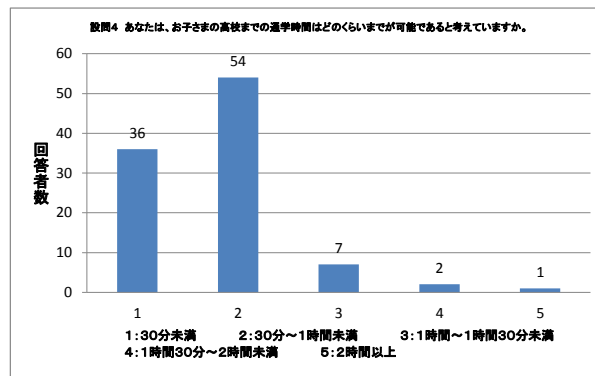
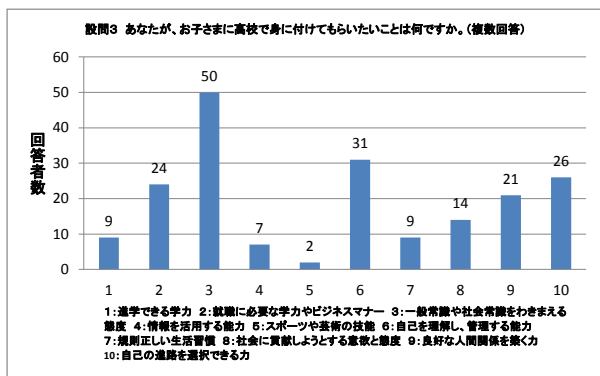
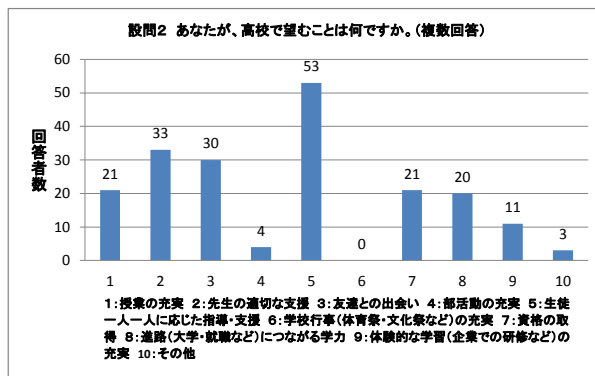
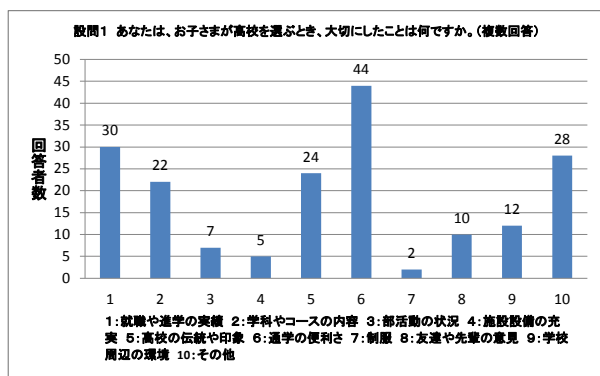
《設問3 高校で身に付けてもらいたいこと》「進学できる学力」は155人(42.5%)で最も多く、以下「一般常識や社会常識をわかせる態度」は146人(40.0%)、「自己の進路を選択できる力」は119人(32.6%)の順である。

《設問4 通学時間について》「30分～1時間未満」は220人(60.3%)で最も多く、次いで「30分未満」119人(32.6%)である。

《設問5 学年当たりの学級数》「4～5学級」は152人(41.6%)で最も多く、次いで「2～3学級」は110人(30.1%)である。

《設問6 あるとよい学科について》「進学、就職どちらにも対応できる普通科」は288人(78.9%)で最も多く、以下「進学に重点をおいた普通科」145人(39.7%)、「看護・福祉に関する学科」は142人(38.9%)の順である。

# 高知県立高等学校再編振興に係るアンケート(高等学校 定時制 保護者)



対象: 定時制9校 100名(高校2年生の保護者)

《設問1 高校を選ぶとき、大切にしたいこと》「通学の便利さ」は44人(44.0%)で最も多く、次いで「就職や進学の実績」30人(30.0%)である。

《設問2 高校で望むこと》「生徒一人一人に応じた指導・支援」は53人(53.0%)で最も多く、以下「先生の適切な支援」は33人(33.0%)、「友達との出会い」は30人(30.0%)の順である。

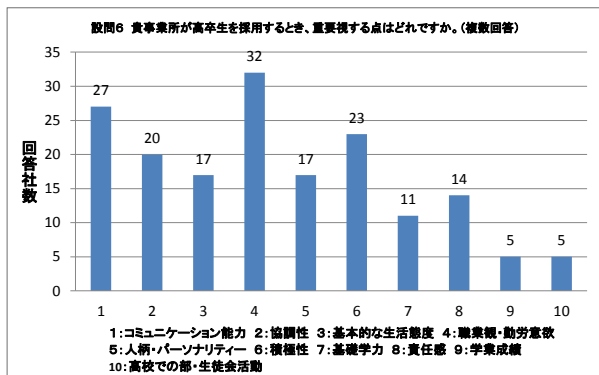
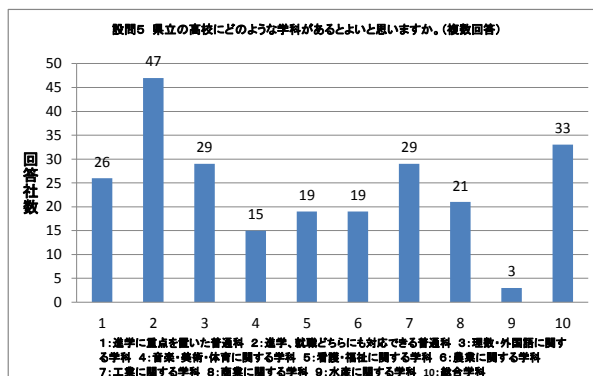
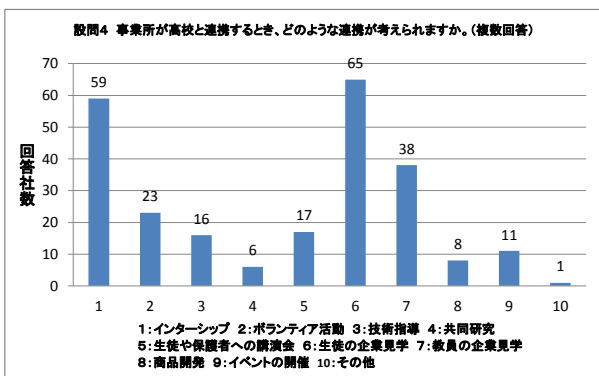
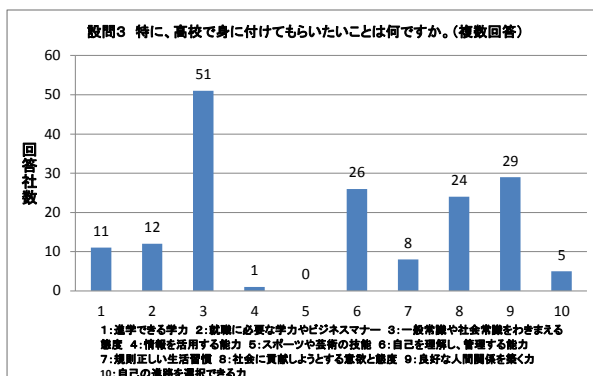
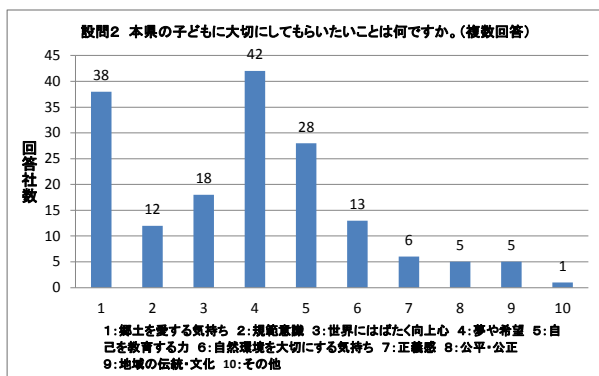
《設問3 高校で身に付けてもらいたいこと》「一般常識や社会常識をわかまえる態度」は50人(50.0%)で最も多く、以下「自己を理解し管理する能力」は31人(31.0%)、「自己の進路を選択できる力」は26人(26.0%)の順である。

《設問4 通学時間について》「30分～1時間未満」は54人(54.0%)で最も多く、次いで「30分未満」は36人(36.0%)である。

《設問5 学年当たりの学級数》「2～3学級」は40人(40.0%)で最も多く、以下「1学級」は35人(35.0%)、「4～5学級」は23人(23.0%)の順である。

《設問6 あるとよい学科について》「進学、就職どちらでも対応できる普通科」は85人(85.0%)で最も多く、以下「看護・福祉に関する学科」は53人(53.0%)、「総合学科」は45人(45.0%)の順である。

## 高知県立高等学校再編振興に係るアンケート(事業所)



対象: 県内企業 84 社

《設問2 子どもに大切にしてもらいたいこと》「夢や希望」は42事業所(50.0%)で最も多く、以下「郷土を愛する気持ち」は38事業所(45.2%)、「自己を教育する力」は28事業所(33.3%)の順である。

《設問3 高校で身に付けてもらいたいこと》「一般常識や社会常識をわかまえる態度」で51事業所(60.7%)で最も多く、以下「良好な人間関係を築く力」は29事業所(34.5%)、「自己を理解し、管理する能力」は26事業所(31.0%)、「社会に貢献しようとする意欲と態度」は24事業所(28.6%)の順である。

《設問4 高校との連携について》「生徒の企業見学」は65事業所(77.4%)、「インターシップ」は59事業所(70.2%)が多く、以下「教員の企業見学」は38事業所(45.2%)の順である。

《設問5 あるとよい学科》「進学、就職どちらにも対応できる普通科」は47事業所(56.0%)で最も多く、以下「総合学科」は33事業所(39.3%)、「理数・外国語に関する学科」は29事業所(34.5%)、「工業に関する学科」は29事業所(34.5%)、「進学に重点を置いた普通科」は26事業所(31.0%)の順である。

《設問6 高校生を採用する際の重視点について》「職業観・勤労意欲」は32事業所(38.1%)で最も多く、以下「コミュニケーション能力」は27事業所(32.1%)、「積極性」は23事業所(27.4%)の順である。

## 4 設問ごとの比較

### (1) 進学する高校を選択するための要素について

問1 あなたが（お子さまの）進学する高校を選ぶとき、大切にする（した）ことは何ですか。  
次の中から**2つ**選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	中学生	高校生	中学校保護者	高等学校保護者
1 就職や進学の実績		52.9%	35.4%	66.9%	46.7%
2 学科やコースの内容		40.5%	29.6%	44.2%	24.9%
3 部活動の状況		23.8%	11.9%	10.6%	10.8%
4 施設設備の充実		14.8%	5.0%	8.2%	2.2%
5 高校の伝統や印象		18.1%	16.9%	17.7%	21.9%
6 通学の便利さ		21.0%	42.6%	31.5%	47.1%
7 制服		4.3%	7.0%	0.3%	2.4%
8 友達や先輩の意見		11.5%	20.9%	4.0%	8.6%
9 学校周辺の環境		7.0%	13.5%	6.2%	10.3%
10 その他		1.7%	6.1%	6.3%	16.6%

※ その他に書かれた意見について

- ① 中学生と高校生は「家族や先生の意見」、「自分に合っているかどうか」という意見があった。また、中学生は「地元に残ること」や「学校行事」、高校生は「経済的理由」という意見があった。
- ② 保護者は「子どもの意思や学力」、「将来の目標がかなえられるかどうか」という意見があった。また、中学生保護者は「地震対策」、高校生保護者は「経済的理由」や「先生の意見」という意見があった。

#### 【コメント】

- ① 全体的に、高校を選択するための要素として「就職や進学の実績」を大切にしている。卒業後の進路を考えただけで、高校を選んでいることがうかがわれる。
- ② 中学生とその保護者は「学科やコースの内容」を選んだ割合が高く、高校教育の内容への関心がうかがわれる。高校教育の内容を中学生やその保護者に知ってもらう機会を増やす必要がある。
- ③ 高校生とその保護者は「通学の便利さ」を一番多く選んでおり、通学の便利さは現実の高校生活を送るうえで重要な要素となっている。
- ④ 高校を選択するための要素として「制服」を選んでいる割合は他と比べて低い。特に、保護者はその関心が低いようである。



## (2) 高校で望むことについて

問2 あなたが、高校で望むことは何ですか。次の中から**2つ**選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	中学生	高校生	中学校保護者	高等学校保護者
1	授業の充実	29.4%	26.9%	31.7%	30.8%
2	先生の適切な支援	6.3%	10.6%	17.3%	21.7%
3	友達との出会い	39.4%	34.1%	23.9%	23.0%
4	部活動の充実	23.2%	17.2%	9.5%	7.3%
5	生徒一人一人に応じた指導・支援	11.8%	16.9%	39.9%	43.9%
6	学校行事の充実	20.9%	27.8%	1.4%	2.2%
7	資格の取得	15.4%	15.2%	17.6%	14.2%
8	進路につながる学力	46.1%	40.7%	51.0%	48.6%
9	体験的な学習の充実	5.3%	5.9%	5.4%	4.9%
10	その他	0.3%	1.5%	0.6%	1.9%

※ その他に書かれた意見について

- ① 中学生と高校生は「能力の向上」という意見があった。
- ② 保護者は「子どもの成長」、「子どもに合った学校生活」という意見があった。

### 【コメント】

- ① 生徒と保護者がともに「進路につながる学力」を一番多く選んでいる。また、「授業の充実」を選ぶ割合も高く、学力保障のための授業の充実は大切なものの一つと考えられる。
- ② 「部活動の充実」及び「学校行事の充実」では、保護者の選んだ割合に比べ、生徒の選んだ割合は高い。生徒が満足した高校生活を送るためには、部活動に活力があること、充実した学校行事ができる環境を整えることも必要である。
- ③ 「生徒一人一人に応じた指導・支援」及び「先生の適切な支援」では、生徒の選んだ割合に比べ、保護者の選んだ割合は高い。保護者は生徒の意識以上に個に応じた指導・支援を望んでいる。学校は生徒一人一人をよく認め、より一層個に応じたきめ細やかな指導を行わなくてはならない。
- ④ 中学生と高校生は「進路につながる学力」に次いで「友達との出会い」を多く選んでおり、高校時代に人との出会いを望んでいることがうかがわれる。

### (3) 高校生活を通して身に付けたい力について

問3 あなたが、(お子さまに) 高校で身に付けたい(身に付けてもらいたい) ことは何ですか。  
次の中から**2つ**選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	中学生	高校生	中学校保護者	高等学校保護者	事業所
1 進学できる学力		49.2%	46.9%	26.1%	35.3%	13.1%
2 就職に必要な学力やビジネスマナー		29.7%	19.3%	20.9%	16.6%	14.3%
3 一般常識や社会常識をわかまえる態度		25.4%	29.3%	47.4%	42.2%	60.7%
4 情報を活用する能力		8.8%	8.1%	4.6%	4.5%	1.2%
5 スポーツや芸術の技能		15.4%	10.9%	3.0%	2.4%	0.0%
6 自己を理解し、管理する能力		9.8%	16.5%	24.7%	27.1%	31.0%
7 規則正しい生活習慣		8.1%	10.9%	4.9%	4.9%	9.5%
8 社会に貢献しようとする意欲と態度		8.1%	6.7%	9.7%	9.2%	28.6%
9 良好な人間関係を築く力		26.6%	33.7%	25.7%	24.1%	34.5%
10 自己の進路を選択できる力		14.4%	14.6%	31.4%	31.2%	6.0%

#### 【コメント】

- ① 中学生と高校生は「進学できる学力」を一番多く選んでいる。また、中学生は「就職に必要な学力やビジネスマナー」を二番目に多く選んでいる。高校において、進路につながる学力を保障する取組を充実させる必要がある。
- ② 保護者と事業所はともに「一般常識や社会常識をわかまえる態度」を一番多く選んでおり、「進学できる学力」を求める生徒の意識との違いがうかがわれる。
- ③ 事業所は「一般常識や社会常識をわかまえる態度」や「良好な人間関係を築く力」を多く選んでおり、社会人としての態度や能力を求めていることがうかがわれる。また、高校生も「良好な人間関係を築く力」を二番目に多く選んでおり、コミュニケーション能力の必要性を感じていると思われる。
- ④ 「一般常識や社会常識をわかまえる態度」を高校で身に付けたいこととして選んだ割合は事業所が一番高く、次いで保護者、生徒の順になっている。それぞれの回答者の立場による違いがうかがわれる。

#### (4) 高校への通学可能な時間について

問4 あなたは、(お子さまの) 高校までの通学時間はどのくらいまでがよいと思いますか (可能であると考えていますか)。次の中から1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	中学生	高校生	中学校保護者	高等学校保護者
1 30分未満		35.7%	60.4%	22.2%	33.3%
2 30分～1時間未満		47.8%	35.0%	62.0%	58.9%
3 1時間～1時間30分未満		12.0%	2.8%	12.8%	7.1%
4 1時間30分～2時間未満		3.5%	0.6%	1.4%	0.6%
5 2時間以上		0.7%	0.9%	0.0%	0.2%

#### 【コメント】

- ① 高校生は、「30分未満」を一番多く選んでおり、問1と同様に現実の高校生活を送るうえで通学の便利さが重要な要素となっていることがうかがわれる。
- ② 生徒と保護者のほとんどが通学時間は1時間未満を望んでいる。部活動など高校生活の充実に時間をかけることを望んでいることが推察される。
- ③ 中学校の所在する地域別の集計結果では、どの地域の保護者も「30分～1時間未満」を多く選んでいる。中学生は、ほとんどの地域の生徒で「30分～1時間未満」を一番多く選んでいるが、高知市の生徒は「30分未満」を一番多く選んでいる。

#### (5) 高校の適正な規模について

問5 あなたの行きたい高校が(あなたは、高校の規模として)、学年当たりどのくらいの学級数であればよいと思いますか(学年当たりの学級数はどのくらいが適切だと思いますか)。次の中から1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	中学生	高校生	中学校保護者	高等学校保護者
1 1学級		8.0%	19.3%	13.3%	18.3%
2 2～3学級		38.4%	31.3%	30.1%	32.3%
3 4～5学級		35.2%	33.1%	39.3%	37.6%
4 6～7学級		11.6%	13.0%	12.5%	9.2%
5 8学級以上		5.7%	3.1%	1.3%	0.6%

#### 【コメント】

- ① 生徒と保護者の多くが「2～3学級」又は「4～5学級」を選んでいる。1学年が複数の学級編成を望んでおり、部活動や学校行事を充実、教科科目等に一定の選択幅が可能な学校規模を望んでいることが推察できる。
- ② 高校生とその保護者が「1学級」を選んでいる割合が20%近くある。これは、定時制に在籍する高校生とその保護者が多く選んでいることによるものである。
- ③ 中学校の所在する地域別の集計結果では、どの地域の中学生も多くが「2～3学級」又は「4～5学級」を選んでいる。「2～3学級」を約50%、「4～5学級」を約25%選んでいる地域がある一方、逆の割合の回答をした地域もある。

(6) どのような学科があるとよいかについて

問6 あなたの行きたい高校の学科は何ですか(あなたは、県立の高校にどのような学科があるとよいと思いますか)。次の中から3つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	中学生	高校生	中学校保護者	高等学校保護者	事業所
1 進学に重点をおいた普通科		49.9%	43.7%	28.5%	34.2%	31.0%
2 進学、就職どちらにも対応できる普通科		71.1%	74.4%	84.5%	80.2%	56.0%
3 理数・外国語に関する学科		30.7%	26.7%	26.9%	26.2%	34.5%
4 音楽・美術・体育に関する学科		22.3%	35.9%	17.9%	18.9%	17.9%
5 看護・福祉に関する学科		16.1%	24.6%	41.4%	41.9%	22.6%
6 農業に関する学科		11.3%	13.0%	9.8%	13.3%	22.6%
7 工業に関する学科		23.7%	14.8%	20.8%	18.5%	34.5%
8 商業に関する学科		18.6%	17.0%	14.4%	11.8%	25.0%
9 水産に関する学科		3.5%	2.4%	1.4%	0.9%	3.6%
10 総合学科		34.9%	30.9%	40.7%	37.8%	39.3%

【コメント】

- ① 生徒と保護者がともに「進学、就職どちらにも対応できる普通科」を一番多く選んでいる。  
中学生とその保護者は、将来にどのような変化があるのかという不安と期待から幅広い選択が可能であるところを望んでいると考えられる。
- ② 事業所は、生徒や保護者に比べ「農業に関する学科」、「工業に関する学科」、「商業に関する学科」を選んでいる割合が高い。一定数の産業系専門学科の卒業生を望んでいることがうかがわれる。

## 5 全日制と定時制との比較

県立高等学校生徒（2年生）とその保護者からの回答のうち、全日制と定時制に分けて比較した。

生徒（全日制403名、定時制（昼間部）55名、定時制（夜間部）82名、合計540名）

保護者（全日制365名、定時制（昼間部）42名、定時制（夜間部）58名、合計465名）

### （1） 進学する高校を選択するための要素について

問1 あなたが（お子さまの）進学する高校を選ぶとき、大切に（した）ことは何ですか。  
次の中から**2つ**選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目 \ 回答者	全日制	定時制（昼間）	定時制（夜間）	保護者全日制	保護者定時制（昼間）	保護者定時制（夜間）
1 就職や進学の実績	39.2%	16.4%	29.3%	51.2%	14.3%	41.4%
2 学科やコースの内容	31.3%	25.5%	24.4%	25.8%	26.2%	19.0%
3 部活動の状況	13.2%	12.7%	4.9%	11.8%	9.5%	5.2%
4 施設設備の充実	5.2%	7.3%	2.4%	1.4%	0.0%	8.6%
5 高校の伝統や印象	16.6%	20.0%	15.9%	21.4%	33.3%	17.2%
6 通学の便利さ	42.9%	34.5%	46.3%	47.9%	47.6%	41.4%
7 制服	6.7%	12.7%	4.9%	2.5%	0.0%	3.4%
8 友達や先輩の意見	19.1%	23.6%	28.0%	8.2%	9.5%	10.3%
9 学校周辺の環境	10.9%	23.6%	19.5%	9.9%	11.9%	12.1%
10 その他	4.5%	12.7%	9.8%	13.4%	31.0%	25.9%

#### 【コメント】

- ① 全体的に「通学の便利さ」を多く選択している。全日制、定時制にかかわらず、通学の便利さは高校を選ぶときの大きな要素となっている。
- ② 全日制は、定時制と比べ「就職や進学の実績」を多く選んでいる。全日制の生徒とその保護者は将来の進路を意識する傾向がうかがわれる。
- ③ 定時制の生徒は、全日制の生徒と比べ「友達や先輩の意見」や「学校周辺の環境」を多く選ぶ傾向がある。
- ④ 定時制（昼間）の保護者は31.0%、定時制（夜間）の保護者は25.9%が「その他」を選んでおり、そのほとんどが「本人の希望」を挙げている。

## (2) 高校で望むことについて

問2 あなたが、(お子さまに) 高校で望むことは何ですか。次の中から**2つ**選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	全日制	定時制(昼間)	定時制(夜間)	保護者全日制	保護者定時制(昼間)	保護者定時制(夜間)
1	授業の充実	26.1%	29.1%	29.3%	33.4%	7.1%	31.0%
2	先生の適切な支援	8.4%	12.7%	19.5%	18.6%	33.3%	32.8%
3	友達との出会い	32.8%	38.2%	37.8%	21.1%	26.2%	32.8%
4	部活動の充実	19.4%	14.5%	8.5%	8.2%	9.5%	0.0%
5	生徒一人一人に応じた指導・支援	15.6%	25.5%	17.1%	41.4%	66.7%	43.1%
6	学校行事の充実	30.0%	25.5%	18.3%	2.7%	0.0%	0.0%
7	資格の取得	13.4%	16.4%	23.2%	12.3%	16.7%	24.1%
8	進路につながる学力	44.7%	27.3%	30.5%	56.4%	19.0%	20.7%
9	体験的な学習の充実	6.2%	5.5%	4.9%	3.3%	11.9%	10.3%
10	その他	1.0%	3.6%	2.4%	1.6%	4.8%	1.7%

### 【コメント】

- ① 「生徒一人一人に応じた指導・支援」では、全日制と定時制ともに生徒を選んだ割合に比べ、保護者の選んだ割合が高い。特に、定時制(昼間)の保護者はその割合は高い。
- ② 定時制(昼間)の保護者は「生徒一人一人に応じた指導・支援」や「先生の適切な支援」を選ぶ割合が高い。
- ③ 「進路につながる学力」では、全日制の生徒やその保護者に比べ、定時制の生徒やその保護者が選んだ割合は低い。定時制の生徒やその保護者は「進路につながる学力」以外にも多様な価値観があることがうかがわれる。

## (3) 高校生活を通して身に付けたい力について

問3 あなたが(お子さまに)、高校で身に付けたい(身に付けてもらいたい)ことは何ですか。次の中から**2つ**選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	全日制	定時制(昼間)	定時制(夜間)	保護者全日制	保護者定時制(昼間)	保護者定時制(夜間)
1	進学できる学力	54.1%	25.5%	25.6%	42.5%	11.9%	6.9%
2	就職に必要な学力やビジネスマナー	18.6%	20.0%	22.0%	14.5%	23.8%	24.1%
3	一般常識や社会常識をわかまえる態度	31.0%	20.0%	26.8%	40.0%	57.1%	44.8%
4	情報を活用する能力	6.5%	16.4%	11.0%	3.8%	0.0%	12.1%
5	スポーツや芸術の技能	9.9%	23.6%	7.3%	2.5%	4.8%	0.0%
6	自己を理解し、管理する能力	15.1%	16.4%	23.2%	26.0%	31.0%	31.0%
7	規則正しい生活習慣	9.4%	18.2%	13.4%	3.8%	4.8%	12.1%
8	社会に貢献しようとする意欲と態度	7.2%	3.6%	6.1%	7.9%	14.3%	13.8%
9	良好な人間関係を築く力	33.0%	36.4%	35.4%	24.9%	16.7%	24.1%
10	自己の進路を選択できる力	12.4%	18.2%	23.2%	32.6%	26.2%	25.9%

### 【コメント】

- ① 全日制の保護者と定時制の保護者ともに「一般常識や社会常識をわかまえる態度」を多く選んでいる。これは、事業所も一番多く選んでいることから、社会人となるための重要な要素であることが考えられる。
- ② 全日制の生徒が「進学できる学力」、「良好な人間関係を築く力」、「一般常識や社会常識をわかまえる態度」を多く選んでいるのに対して、定時制の生徒は「良好な人間関係を築く力」を多く選んでいるものの、他にも幅広く選択する傾向がある。このことから、定時制の生徒のニーズは多様であることがうかがわれる。
- ③ 全日制の生徒と定時制の生徒ともに「良好な人間関係を築く力」を選んだ割合は保護者のそれより高い。保護者と比べ生徒は人間関係を大切にする傾向がうかがわれる。

### (4) 高校への通学可能な時間について

問4 あなたは、(お子さまの) 高校までの通学時間はどのくらいまでがよいと思いますか (可能であると考えていますか)。次の中から1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	全日制	定時制(昼間)	定時制(夜間)	保護者全日制	保護者定時制(昼間)	保護者定時制(夜間)
1 30分未満		58.8%	61.8%	67.1%	32.6%	33.3%	37.9%
2 30分～1時間未満		37.2%	29.1%	28.0%	60.3%	54.8%	53.4%
3 1時間～1時間30分未満		2.2%	5.5%	3.7%	7.1%	9.5%	5.2%
4 1時間30分～2時間未満		0.5%	1.8%	0.0%	0.3%	2.4%	1.7%
5 2時間以上		0.7%	1.8%	1.2%	0.0%	0.0%	1.7%

### 【コメント】

- ① 全体的に、通学時間は1時間未満がよいと考えている。特に、定時制は通学時間が短い方を選ぶ傾向がある。
- ② 全日制の生徒と定時制の生徒ともに「30分未満」を選択した割合が高いが、それらの保護者は「30分～1時間未満」を選択した割合が高い。

## (5) 高校の適正な規模について

問5 あなたの行きたい高校が（あなたは、高校の規模として）、学年当たりどのくらいの学級数であればよいと思いますか（学年当たりの学級数はどのくらいが適切だと思いますか）。次の中から1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	全日制	定時制（昼間）	定時制（夜間）	保護者全日制	保護者定時制（昼間）	保護者定時制（夜間）
1	1学級	11.2%	41.8%	43.9%	13.7%	33.3%	36.2%
2	2～3学級	28.8%	40.0%	37.8%	30.1%	45.2%	36.2%
3	4～5学級	39.5%	14.5%	14.6%	41.6%	21.4%	24.1%
4	6～7学級	16.4%	3.6%	2.4%	11.5%	0.0%	1.7%
5	8学級以上	4.0%	0.0%	1.2%	0.8%	0.0%	0.0%

### 【コメント】

- ① 全日制の生徒とその保護者は「2～3学級」又は「4～5学級」を多く選んでいるのに対し、定時制の生徒とその保護者は、「1学級」又は「2～3学級」を多く選んでいる。全日制と定時制では、それぞれに対する期待とニーズの違いが推察される。

## (6) どのような学科があるとよいかについて

問6 あなたの行きたい高校の学科は何ですか（あなたは、県立の高校にどのような学科があるとよいと思いますか）。次の中から3つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目	回答者	全日制	定時制（昼間）	定時制（夜間）	保護者全日制	保護者定時制（昼間）	保護者定時制（夜間）
1	進学に重点をおいた普通科	47.1%	30.9%	35.4%	39.7%	9.5%	17.2%
2	進学、就職どちらにも対応できる普通科	72.7%	80.0%	79.3%	78.9%	83.3%	86.2%
3	理数・外国語に関する学科	28.0%	27.3%	19.5%	29.6%	21.4%	8.6%
4	音楽・美術・体育に関する学科	31.8%	49.1%	47.6%	16.4%	31.0%	25.9%
5	看護・福祉に関する学科	25.1%	25.5%	22.0%	38.9%	47.6%	56.9%
6	農業に関する学科	13.6%	10.9%	11.0%	14.2%	9.5%	10.3%
7	工業に関する学科	14.6%	9.1%	19.5%	18.4%	19.0%	19.0%
8	商業に関する学科	18.1%	18.2%	11.0%	12.1%	11.9%	10.3%
9	水産に関する学科	1.7%	5.5%	3.7%	0.8%	2.4%	0.0%
10	総合学科	31.0%	29.1%	31.7%	35.9%	50.0%	41.4%

### 【コメント】

- ① 全日制と定時制ともに8割程度が「進学に重点をおいた普通科」を選んでいる。全日制と定時制ともに将来の進路に柔軟に対応できる体制を望んでいることがうかがわれる。
- ② 全日制と定時制ともに保護者は生徒に比べ、「看護・福祉に関する学科」を多く選んでいる。また、生徒は保護者に比べ「音楽・美術・体育に関する学科」を多く選んでいる。
- ③ 定時制の生徒の3割以上は「進学に重点をおいた普通科」を選択しているが、その保護者が選択した割合は低い。定時制において、生徒と保護者の間に進学に対する意識の違いがうかがわれる。



## 6 事業所について

### (1) 本県の子どもに大切にしてもらいたいこと

問2 本県の子どもに大切にしてもらいたいことは何ですか。次の中から2つ選んでください。

項目	回答者	事業所
1 郷土を愛する気持ち		45.2%
2 規範意識		14.3%
3 世界にはばたく向上心		21.4%
4 夢や希望		50.0%
5 自己を教育する力		33.3%
6 自然環境を大切にする気持ち		15.5%
7 正義感		7.1%
8 公平・公正		6.0%
9 地域の伝統・文化		6.0%
10 その他		1.2%

#### 【コメント】

- ① 「夢や希望」、「郷土を愛する気持ち」を選んだ割合が高い。これは、高知県教育振興基本計画（平成21年9月）における基本的な教育理念（目指すべき人間像）の「郷土を愛し世界にはばたく、心豊かでたくましく創造性に満ちた子どもたちの育成」、「学ぶ目的や意義を自覚し、自ら学ぶ力をもった人間の育成」や基本方針の一つである「心身ともに健やかで『夢』や『希望』にあふれた土佐人を育てよう」に一致している。

### (2) 高校生活を通して身に付けたい力

問3 特に、高校で身に付けてもらいたいことは何ですか。次の中から2つ選んでください。

項目	回答者	事業所
1 進学できる学力		13.1%
2 就職に必要な学力やビジネスマナー		14.3%
3 一般常識や社会常識をわかまえる態度		60.7%
4 情報を活用する能力		1.2%
5 スポーツや芸術の技能		0.0%
6 自己を理解し、管理する能力		31.0%
7 規則正しい生活習慣		9.5%
8 社会に貢献しようとする意欲と態度		28.6%
9 良好な人間関係を築く力		34.5%
10 自己の進路を選択できる力		6.0%

#### 【コメント】

- ① 「一般常識や社会常識をわかまえる態度」、「良好な人間関係を築く力」、「自己を理解し、管理する能力」を選んだ割合が高く、これは、高校生とその保護者の傾向と一致する。
- ② 「社会に貢献しようとする意欲と態度」を選んだ割合は28.6%であるが、高校生は6.7%、その保護者は9.2%であり、意識の違いがうかがわれる。

### (3) 事業所と高校との連携について

問4 事業所が高校と連携するとき、どのような連携が考えられますか。次の中から3つ選んでください。

項目	回答者	事業所
1 インターンシップ		70.2%
2 ボランティア活動		27.4%
3 技術指導		19.0%
4 共同研究		7.1%
5 生徒や保護者への講演会		20.2%
6 生徒の企業見学		77.4%
7 教員の企業見学		45.2%
8 商品開発		9.5%
9 イベントの開催		13.1%

#### 【コメント】

- ① 「生徒の企業見学」、「インターンシップ」を選んだ割合が高い。高校生採用に関する企業意識調査（高知県経営者協会・平成21年2月）の中で、高卒新卒者の採用と定着に向けて、職業関連教育に産学連携で取り組む必要性が報告されており、事業所は、まず学校や高校生に事業所の内容を知ってもらいたいという傾向がうかがわれる。

### (4) 高卒採用に関し、重要視する点について

問6 貴事業所が高卒者を採用するとき、重要視する点はどれですか。次の中から2つ選んでください。

項目	回答者	事業所
1 コミュニケーション能力		32.1%
2 協調性		23.8%
3 基本的な生活態度		20.2%
4 職業観・勤労意欲		38.1%
5 人柄・パーソナリティ		20.2%
6 積極性		27.4%
7 基礎学力		13.1%
8 責任感		16.7%
9 学業成績		6.0%
10 高校での部・生徒会活動		6.0%

#### 【コメント】

- ① 「職業観・勤労意欲」、「コミュニケーション能力」、「積極性」を選んだ割合が高い。今回の調査結果と「平成19年度高校新卒者採用に関するアンケート調査結果」（東京経営者協会）と比べると、本県の事業所は「職業観・勤労意欲」、「積極性」を重要視する傾向がうかがわれる。

② 「貴事業所が高卒者を採用するとき重要視する点について、問6での回答（選択する項目）以外にあればお書きください。」という問いに対し次の回答があった。

(ア) 体力・健康

(イ) 人柄の良さ

(ウ) 自分の意見を表現できる力

(エ) 欠席数（特別な理由を除く）

## 7 総括

- (1) 通学時間は本県の地理的な環境や交通事情等を考慮しなければならないが、おおむね1時間未満が適当であるという意向がうかがわれる。部活動、家庭学習など自主的な活動に時間を費やすことが可能になり、高校生活に幅ができる。
- (2) 学校規模は、全体的に2～5学級の範囲を多く回答している。中学生は「2～3学級」と回答している割合が「4～5学級」と回答している割合よりやや高いが、高校生、中学生保護者、高校生保護者は「2～3学級」より「4～5学級」と回答した割合が高くなっている。高校生やその保護者は中学生と比べると、規模の大きな方を望む傾向がうかがわれる。教育課程の幅の広さ、部活動の選択幅などからも適切な規模を望んでいることが推察される。
- (3) 進学する高校を選択するための要素では、中学生、高校生、それらの保護者は「就職や進学の実績」を多く選択し、高校で望むことでは「進路につながる学力」、高校生活を通して身に付けた力では「進学できる学力」や「就職に必要な学力やビジネスマナー」、「一般常識や社会常識をわきまえる態度」を多く選択している。これらのことから、生徒、保護者ともに高校卒業後の進路に対する関心の高さがうかがわれる。
- (4) どのような学科があるとよいかでは、中学生、高校生、それらの保護者は「進学・就職どちらにも対応できる普通科」を選んでいる割合が高い。中学校段階で将来の進路を決めかねている現状がうかがわれる。
- (5) 全日制と定時制との比較から、それぞれに対する期待や求める存在意義は違っている。

高知県公立高等学校入学者選抜 合格者数等の状況（課程別）

参考資料6

1 全体 (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率	入学定員	合格者総数	定員充足率
全日制	5,410	4,250	78.6%	5,410	4,285	79.2%	5,370	4,288	79.9%	5,330	4,084	76.6%	5,330	3,993	74.9%	5,330	3,831	71.9%	5,090	3,655	71.8%	5,090	3,677	72.2%	5,090	3,577	70.3%
多部制	360	192	53.3%	360	175	48.6%	240	112	46.7%	200	123	61.5%	200	118	59.0%	200	94	47.0%	200	86	43.0%	200	96	48.0%	200	75	37.5%
定時制	520	81	15.6%	520	75	14.4%	560	68	12.1%	560	51	9.1%	560	49	8.8%	560	39	7.0%	560	40	7.1%	560	45	8.0%	560	47	8.4%
合計	6,290	4,523	71.9%	6,290	4,535	72.1%	6,170	4,468	72.4%	6,090	4,258	69.9%	6,090	4,160	68.3%	6,090	3,964	65.1%	5,850	3,781	64.6%	5,850	3,818	65.3%	5,850	3,699	63.2%

※全日制的合格者総数には、併設中学校から併設高等学校への進学者数を含む。

2 全日制 (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数
A日程	5,410	4,131	3,745	5,410	4,194	3,752	5,370	4,136	3,770	5,330	3,933	3,618	5,330	3,784	3,524	5,330	3,665	3,385	5,090	3,476	3,209	5,090	3,492	3,177	5,090	3,406	3,172
連携型		126	117		101	92		117	108		92	89		109	107		95	91		78	77		117	115		71	71
B日程	1,339	285	178	1,366	325	238	1,275	263	193	1,396	196	149	1,484	178	147	1,666	201	170	1,594	191	160	1,590	198	170	1,657	173	145
計			4,040			4,082			4,071			3,856			3,778			3,646			3,446			3,462			3,388

※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員については、入学定員内とし、特に定めない。

3 (1) 多部制単位制（昼間部） (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数
A日程	200	152	124	200	139	118	120	96	89	120	99	92	120	117	97	120	76	69	120	78	70	120	87	74	120	66	53
B日程	76	21	18	82	22	14	31	4	2	28	8	6	23	5	2	51	19	15	50	11	8	48	15	9	67	9	6
計			142			132			91			98			99			84			78			83			59

(2) 多部制単位制（夜間部） (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数
B日程	160	51	42	160	39	32	120	19	14	80	21	18	80	19	14	80	9	5	80	4	4	80	15	12	80	16	13
C日程	79	15	8	128	16	11	106	10	7	62	12	7	66	10	5	75	6	5	76	5	4	68	5	1	67	5	3
計			50			43			21			25			19			10			8			13			16

4 定時制 (人)

	H27			H28			H29			H30			H31			R2			R3			R4			R5		
	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数	募集定員	受検者数	合格者数
B日程	520	84	52	520	78	46	560	72	47	560	50	34	560	44	35	560	34	29	560	33	31	560	35	32	560	39	33
C日程	468	53	29	474	41	29	513	42	21	526	25	17	525	16	14	531	13	10	529	10	9	528	17	13	527	16	14
計			81			75			68			51			49			39			40			45			47

<県立高等学校の改編等による入学定員の変更について>

H29	○ 安芸高等学校(全日制)及び宿毛高等学校(全日制)において、各1学級減(各40人減)となった。 ○ 須崎工業高等学校(全日制)において、学科改編により4科から3科6専攻に変更となり、40人減となった。
H30	○ 大方高等学校において、多部制単位制(昼間部)(80人)が全日制に、多部制単位制(夜間部)(40人)が定時制に、それぞれ改編された。
R3	○ 安芸桜ヶ丘高等学校(全日制)の環境エネルギー科及び高知北高等学校(多部制単位制(夜間部))の衛生看護科が募集停止となった。 ○ 高知南高等学校(全日制)及び高知西高等学校(全日制)が募集停止となり、高知国際高等学校(全日制)が募集開始となった。